

目次

婚姻と家庭

全家族が信仰に入る	3
家庭礼拝.....	6
主の内にいる青年と婚姻について話す	8
「家庭」を論じる.....	10
手を携えて共に行く	12
良き助け手	13
良妻賢母.....	15
家庭と教会の間	17
夫婦の交流	19
キリストと婦人.....	21
主の内にいる婦人への期待	23

聖書を読むことと聖書を調べること

聖書を読む七つのポイント	25
聖書を読むと益がある.....	27
創世記の教え.....	32
創世記から真の神を知る	36
七祭の霊的な教え.....	38
逃れの町の預表.....	41
ルツ記の真髄.....	46
ヨブ記の苦難観	48
箴言の中にて冠を論じる	50

伝道の書から人生の美事を見る	52
ハガイ書のメッセージ.....	54
オバデヤ書を調べる時の心得.....	59
ヤコブの手紙にて祈りを論じる	63
ペテロの第一の手紙を調べる.....	65
主が復活した後の「七つの問い」.....	70
三章十六節.....	72

奉仕とその備え

キリストに従う.....	73
神の家を愛する.....	75
教会は神の家である.....	76
教会の指導の仕事を論じる.....	77
良い忠実なしもべ.....	80
良き牧者.....	82
大いなる志を立てて、大きな謀を設けよ.....	84
到る所に祭壇を築き、どんな所でも光を輝かせよ.....	88
更に多く、更に大きく、更に美しく.....	91
一つの良い事.....	93
カルメルの山とれだまの木の下.....	95
クリスチャンの学ぶこと.....	96
信じて主に帰する人が増えた.....	98

婚姻と家庭

全家族が信仰に入る

序言：

使徒時代には聖霊が活発に働き、日々主を信じる人が増えた（使徒 2：47、16：5）；信じて主に帰した人達では、大部分が全家族で信仰に入ったのである。例えば：コルネリオ一家、ピリピの獄吏一家、コリントで会堂を管理していたクリスポ一家.....など。今日、真の教会では、多くが全家族で信仰に入ったわけではない。だから、私達は「全家族で信仰に入る」という目標に向かって努力しなければならないのである。

一、三つの理由

1、神の御旨である

神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる（テモ 2：4）
一人も滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望む（ペテ 3：9）
神がノアに箱舟を造るよう指示したのは、ノア一家を救うためである（ヘブ 11：7）
イエスはザアカイ一家を救った（ルカ 19：5，9）
イエスは、ゲラサにて悪霊に憑かれた人を癒し、自分の家族の元に帰って主の慈しみを知らせるようにと言われた（マル 5：18～20）

2、私の責任である

私達はすべての造られたものに福音を宣べ伝えなければならない（マル 16：5）
パウロは言った：福音を伝えなければ災いがある、なぜなら、その責任は私達に託された（コリ 9：16～17）
家族に警告を伝えることは、全ての見張る者の責任である（エゼ 33：1～9）
聖書によれば：死地にひかれゆく者を助け出せ、滅びによるめきゆく者を救え（箴 24：11～12）
自分の家族を顧みない人は、不信者よりも悪い（テモ 5：8）

3、全家族が救いにあずかる

救いとは、今の罪悪から抜け出し、将来神の国に入ることである（テモ 4：18；使徒 26：18）
滅びとは、たましいが火の池に投げ込まれ、永遠の刑罰を受ける（黙 21：8；マタ 25：46）
私達は家族が滅ぶのを見ても黙っているのか？それよりも、すぐに全家族を信仰に入るよう導き、全家族が救いにあずかる事が出来るようにするべきである（参考：ルカ 16：19～31）

二、三つの益

1、全家族が喜ぶ

ピリピの獄吏一家が信仰に入り、全家族が心から喜んだ（使徒 16：30～34）

主曰く：「一人の罪人が悔い改めるなら、天の上も彼のために大いに喜ぶだろう」（ルカ 15：7）。ましてや、全家族が信仰に入るなら、その喜びは更に大きい

2、容易に真理を守れる

二人は一人に勝る（伝 4：9～12）、全家族が信仰に入ると、互いに呼応して助け合い、全家族が信仰に入っていない人より容易に真理を守ることが出来る

3、容易に人を導ける

全家族が信仰に入っていないと、主の真理を伝える言葉の力が乏しくなってしまう；ある人が言った：「医者よ、自分自身をいやせ」（ルカ 4：23）

全家族が信仰に入れば、主の真理を伝える言葉に力がみなぎり、多くの人を導いて主に帰し、主の御名を栄える（箴 14：28）

三、三つの方法

1、常に証をする

聖書によれば：「聞いたことのない者を、どうして信じるであろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くであろうか」（ロマ 10：14～17）

豊かにまく者は、豊かに刈り取り、少ししかまかない者は、少ししか刈り取れない（コリ 9：6）人を導いて主に帰することは当然である

「涙をもって種まく者は、喜びの声をもって刈り取る」（詩 126：5～6）

方法：常に主の真理、主の恵みを証し、家族を導いて伝道会に参加する。伝道者や同労者を家に招いて証をする（常に家庭礼拝を行う）；家には福音に関する小冊子、聖霊報、書籍、聖書などを随時置く

2、いつでも光を輝かせる

主の教え（マタ 5：14～16）

ペテロの励まし（ペテ 3：1～2）

3、絶えず助祷する

この世の神が不信の者たちの思いをくらませた（コリ 4：4）

聖書によれば：「王の心は、主の手のうちにある」（箴 21：1）

絶えず、切に、家族の救いのために多く祈りなさい（テモ 2：1～3）

結論：

個人であろうとも、教会であろうとも、「全家族が信仰に入る」という目標に向かって努力しなければならない。

家庭礼拝

聖句：使徒20：20

一、家庭祭壇

- 1、アブラハム（創12：7～8、13：18）
- 2、イサク（創26：25）
- 3、ヤコブ（創33：18～20）
- 4、マリヤの家（使徒12：5，12）
- 5、ルデヤの家（使徒16：40）
- 6、家の教会（コリ16：19；ピレ2）

二、どんな益があるのか？

- 1、子供が神に罪を犯さないようにするため（ヨブ1：5）
- 2、子供の信仰と徳を育てる（テモ1：5、3：15；ダニ6：10）
- 3、世代間の情誼の疎通（詩128：3～4、133：1～3）
- 4、信仰に入っていない家族を導く（使徒10：24，33，44；テモ5：8）
- 5、人材を訓練する（ヨシュ24：15）、人材を見つけて、育てる
- 6、真の神は必ずこの家を祝福する（創18：18～20；サム下6：11；マタ18：19）

三、どのようにして家庭礼拝を実行するのか？

1、時間

朝（出勤前、授業前、働く前……）

夜（夕食後、就寝前……）

その他（祝日、祝い事、……何れも良い）

2、場所

家の中（リビング、寝室、書斎……）

野原（ピクニック程度で行けるような郊外の野原）

3、回数

一日一回

週一回

一ヶ月、一年に一回でも良い

4、司会者

家長が主宰する

家族の構成員が順番に主宰する（人材を訓練する良い機会）

時には教会の伝道者や責任者を招いて主宰してもらう

5、方法

祈り、讃美歌、聖書を読む、説教、聖書を調べる、質疑応答、物語を話す、証、座談...
...など、形式に囚われずに、実際の需要に応じて行う

結論：

願わくは、全ての家で行われ、すべての人が参加し、神が各々の家にて王となり、キリストを迎えて「我が家の主」となる。しかし、この家庭礼拝は会堂の集会時間以外に行うべきであり、家庭礼拝によって会堂集会が影響されてはいけない。

主の内にいる青年と婚姻について話す

序言：

全ての人は結婚を重んじるべきである（ヘブ13：4）。真の神が設立した婚姻の真理を理解する事によって、婚姻を重んじる事が出来る。

一、婚姻の由来

- 1、真の神が設立した（マル10：6～9）
- 2、エデンの園から始まる（創2：8，18～25）

二、婚姻の目的

- 1、男女に伴侶が出来、互いに助け合い、互いに寄り添う（創2：18，20；伝4：9～11）
- 2、人が多く生み、増える。敬虔なる後代を得る（創1：27，28；マラ2：15）
- 3、不品行なことを避けるため（コリ7：2，8～9）
- 4、これを以って更にキリストと教会の愛を知る（エペ5：22～33）
- 5、人が夫婦の愛を得て、一家団欒を楽しむ（詩128；創26：8）
- 6、二人が心を一にし、天国の道の良き伴侶となる（アモ3：3；ペテ3：7）

三、婚姻の条件

神の指示：「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである（創2：24）

- 1、父と母から離れる（独立、自主）
- 2、二人が結び合う（互いに愛する）
- 3、一体となる（両性の結合）（コリ7：3～5）

四、婚姻の形態

- 1、原始型（アダムの例）（創二章）
- 2、伝統型（イサクの例）（創二十四章）
- 3、自由形（ヤコブの例）（創二十九章）
- 4、放縦型（サムソンの例）（士十四～十六章）
- 5、霸王型（アムノンの例）（サム下十三章）

五、婚姻の入門

- 1、婚約から入門する
- 2、恋愛から入門する
- 3、性愛から入門する

六、婚姻の態度

- 1、神が合わせたものを尊重する（マル10：9；創2：18）
- 2、好き勝手に選んではいけない（創6：1～3）
- 3、好き勝手に別れてはいけない（マル10：2～12； コリ7：5）
- 4、神の祝福を信じる（箴19：14、18：22、31：10～12）
- 5、祈り、更に祈る（創24：7、12～14、26～27、63、詩37：4～5）
- 6、主の内において結婚する（申7：3、4； コリ6：14～18）
- 7、耐え忍んで主を待ち望む（詩37：7、27：14）

七、相手を選ぶ条件

- 1、一般の人（家柄、身分がつりあう事）
資産（箴15：16～17、23：5；マタ16：26；ルカ12：15）
容姿（ペテ1：24；箴31：30、11：22）
学歴（箴1：7； コリ8：1）
その他（参考：伝9：11）
- 2、クリスチャン
信仰が第一（コリ6：14～15；申7：3～4；ネヘ13：23～27）
品德を重んじる（箴30：21、23、31：2～9、10～27、3：3； テモ2：8～11； ペテ3：2～6）
健康が大事（マタ6：25；箴20：29；創24：18～20）
知恵を最上とする（箴14：1、11：22、31：26）
その他：理想？需要？（ロマ8：28）

八、幾つかの提議

- 1、謹んで交友し、重大な過ちを犯さない（箴18：24； コリ15：33～34）
- 2、密かに観察し、客観的に分析する（コリ14：29；ヨブ34：3～4）
- 3、誠意を持って表し、完全に従順となる（マタ16：24、26：39）
- 4、距離を保って、安全を策する（コリ7：1；箴26：20）
- 5、絶えず祈り、完全に託す（箴16：3；ピリ4：6～7）

結論：

日の下で神から賜ったあなたの空なる命の日の間、あなたはその愛する妻と共に楽しく暮すがよい。これはあなたが世にあってうける分、あなたが日の下で労する労苦によって得るものだからである。（伝9：9）

「家庭」を論じる

序言：

家での一日は、外にいる千日にも勝る

家では毎日が楽しいのに、外に出たら毎日が辛い

クリスチャンの家は「愛の巣」であり、この通りに感じる事が出来る

(参考：詩篇84編)

一、家の目的は何か？

1、一般の家

家は国であり、国は至上である

家は父母から為り、父母は至上である

家は子や孫から為り、子や孫は至上である

2、クリスチャンの家

家は互いに愛し、互いに助け合う所(創2：18, 24)

家は品德を育てる所(テモ1：5；箴14：1)

家は心身ともに安らげる所(マタ11：28；ヨハ16：33)

家は神に仕え、神を栄える所(ヨシュ24：15；使徒16：15；エペ3：10, 21)

家は天国を躰す所(ルカ17：21；ロマ14：17)

二、理想の家

1、全家族が信仰に入る(使徒十六：30~34；ヘブ11：7；ルカ19：9)

2、全家族が主に仕える(ヨシュ24：15；コリ16：19)

3、全家族が主を尊んで大いなるものと為す(ルカ1：46；ヨハ2：1~2)キリストは一家の主である

4、家庭を教会化する(ロマ16：5；ピレ2)

5、家は愛の巣である(箴15：16~17、17：1, 17；詩133篇)

家は、愛を教え、愛を訓練し、愛を躰し、愛の所と為す(コリ13：4~8；ヨハ4：16~18)

三、全家族の幸せ

幸せな家庭は家族全員が力を合わせて営み、共に守っていかなければならない。詩篇百二十八篇は正に幸せな家庭の有様と言える。

1、夫に関して(1~2)

- a 真の神を敬い恐れる(詩115：13；ヨブ1：1, 5；ヘブ11：7)

- b 主の真理を守り行う（ヤコ1：25；ルカ11：27～28；ヨハ13：17）
- c 労苦し努力して働く（創2：15；出エジ20：9；テサ3：7～12）

2、妻に関して（3上）

- a 家の奥にいる（雅4：12，16；テモ5：6，13；詩45：10～11）
- b 多くの実を結ぶ（ペテ3：1～6；創24：60）
- c ぶどうの木のように（創24：67；箴31：10～31）

3、子供たちに関して（3下）

- a 息子や娘がいる（詩127：3～5）
- b 食卓を囲む（エペ6：1～4；創二十二1～8）
- c オリブの若木のように（詩52：8、92：12～14、144：12）

四、家とは何か？（新聞社にて応募し、入選した作品）

- 1、家、人類のゆりかごである
- 2、家、ここでは、小が大となり、大が小となる
- 3、家、愛の巣であり、道理ではなく、ただ愛を語る
- 4、家、煩いの言葉が最も多いが、待遇が最も優れている
- 5、家、ここには、最も美しい人がいて、最も喜ぶことがある
- 6、家、父親の国、母の世界、子供の楽園
- 7、家、愛の中心であり、私達の最も愛する事がここでぐるぐる回っている
- 8、家、世界にて唯一の場所、全ての過ちと失敗が愛によって遮られる
- 9、家、世界の紛争を門の外に出し、骨肉団欒の愛情を門のうちに入れる
- 10、家、ここで、私達のお腹は一日三食を得るが、私達の心は千や万を得る

結論：

主の、のろいは悪しき者の家にある、しかし、正しい人のすまいは主に恵まれる（箴3：33）

手を携えて共に行く

序言：

神が造った全ての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった（創1：31）、ただ人が一人であるのは良くない（創2：18）

結婚は良い事である。二人が共に素晴らしき成果を上げられる（創2：18, 24；伝4：9）

結婚後は手を携えて共に行く。心を合わせてこそ共に行ける（アモ3：3）

以下の通り四種類に分けてみたので、共に学ぼう

一、楽を共にして苦を共にしない

1、ヨブの妻のように（ヨブ2：9～10）

2、ポテパルの妻のように（創39：7～18）

夫婦が苦難に遭ったら、心を合わせて克服し、苦難によって別れる事がないように

二、苦を共にして楽を共にしない

1、ミカルとダビデは苦を共にした（サム上18：20～28、19：1～17）

2、彼女は夫と楽を共にしない、栄を共にしなかった（サム下6：16～23）

夫婦間では、互いに楽と栄え、成功を分かち合う。これによって相手を軽視し、嫌ってはいけない

三、苦楽を共にしない

1、ナバルとアビガイルの夫婦がこの類である（参考：サム上二十五章）

2、この夫婦は信仰の違い、個性の違い、家柄や身分の不釣り合い、趣味の違い……などによって結婚生活が変わってしまった。結婚する前には慎むべきである

聖書の教え： コリ6：14～18；箴18：22、19：14；申7：1～4；マラ2：14～16

四、苦楽を共にする

1、アブラハムとサラ（創12：1～5、13：1、23：1～2、25：8～12）

2、イサクとリベカ（創24：67、25：21、26：8）

3、エルカナとハンナ（サム上1：8、23；全章）

4、アクラとプリスキラ（ロマ16：3～5；使徒18：2～3、26）

聖書の教え： コリ7：3～5、32～34；エペ5：22～33；ペテ3：7；コ口3：19

結論：

あなたはその愛する妻と共に楽しく暮すがよい。これはあなたが世にあって、日の下における最も尊いことである（伝9：9）

良き助け手

序言：

真の神が女を作った目的は、男を助けるためである（創2：18；箴31：10～12； コリ11：9）

故に、全ての婦人は志を立て、良き助け手となるよう努力して追い求めるべきである

一、夫を助ける（箴12：4）

- 1、健康を顧みる（参考：申34：7；箴18：22，14、17：22）
- 2、精神的な励まし（ヨブ2：7～10；サム下6：20～23；箴16：24）向上心の励まし
- 3、彼を導いて主に帰する（ペテ3：1）、共に天国の道を歩み、共に主に仕える（使徒18：1～3）
- 4、絶えず祈り、主の守りを求める（詩127：1）、歩むべき道に導いてくれるよう主に求める（詩25：5，12、27：4～5）

二、家庭を助ける（箴14：1）

- 1、家事を顧みて、怠けの糧を食べない（箴31：27； テモ5：13）
- 2、子を養い教え、主の真理を守り行わせる（箴22：6；申6：6～7； テモ1：5；箴3：3～7）
- 3、両親に孝行し、主に喜ばれる（エペ6：1～3；箴23：24～25；孝行な嫁ルツの例）
- 4、悪婦となって家庭を震動しない（箴30：23；忌みきらわれた女が嫁に行く：品德のない女が嫁に行く；箴19：13、21：9，19）

三、教会を助ける（ロマ16：1～2）

- 1、熱心に集会する（ヘブ10：25；使徒16：13～15）
- 2、熱心に捧げる（ルカ8：1～3；使徒16：15）
- 3、賜物を上手に使う（ペテ4：10～11；ロマ12：6～11）
- 4、熱心に善を行う（テモ5：9～10；使徒9：36～42）
- 5、熱心に証をする（詩68：11；使徒18：26～28）
- 6、働き人を助ける（ロマ16：3～4；使徒18：1～4）
- 7、祈りを助ける（コリ1：11；使徒1：14、12：5，12）

四、自立する（コリ9：27）

- 1、常に霊的な修行をする（テモ2：9～15；参考：使徒5：7～11。サツピラは霊的な修行が良くなかったので、結果夫を助ける事も出来ず、教会に対しても無益である）
- 2、絶えず上を目指す（箴11：22、14：24、18：22）。聖書をよく読み、霊的な書籍を多

く見て、自分を充実させる（詩119：97～100）

3、言葉を慎む（テモ5：13；箴16：21～24）

4、品徳に優れる（柔和、従順、安静、清く。参考：ペテ3：2～6；テモ2：9～15）

結論：

願わくは、姉妹達が「賢い婦人」となるように（箴31：10～12，28～30）

願わくは、姉妹達が神の祝福を受けて、全ての人の母となり、あなたの子孫はその敵の門を打ち取るように

良妻賢母

序言：

多くの人は男性を重んじて、女性を軽んじるが、聖書では女性を軽んじない（ガラ3：27～28；士5：6～7，12，24）

イエスが福音を伝えていた頃、常に女性達から金銭と物資の供給を受けた（ルカ8：1～3、10：38）

多くの女性達は主に従い、主に仕えた（ヨハ12：2；マタ27：55～56）

イエスが十字架につけられた時、全ての弟子達は主から離れたが、ただ、女性達だけが強く十字架の下に佇んでいた（マタ26：31；ヨハ19：25）

初代教会の建立には、女性達も基礎確立に参加した（使徒1：14）

故に、主の内にいる女性達（特に伝道者の奥さん）には、このような期待を抱いている。願わくは、共に学んで行きたいと思う。

一、良き妻となる

1、妻の重要性（ コリ11：9；箴14：1）

夫の良き助け手（創2：18；箴31：10～12）

夫の良き伴侶（伝4：9～12； コリ6：14）

賢い妻は神から賜る（箴19：14、18：22）

2、絶えず向上する（箴11：22、14：24、31：25）

3、常に実を結ぶ（詩128：3）

4、容貌と装飾（ テモ2：9～11； ペテ3：3～6；箴31：25，30）

5、夫のために祈る（参考：出エジ17：8～11；マタ18：19）

6、賢い女性（箴12：4、31：10～12，28～29）は、夫の冠である

7、忌み嫌われる女性（箴30：23、21：9，19、14：1下）は、家庭を震わせ、不安にする

二、良き母親となる

1、母親の重要性（ テモ1：5；出エジ2：2；ルカ2：19，51）

2、子供を養い教える（箴22：6；ヘブ12：8）

神から託された嗣業（詩127：3；創33：5、48：9）

イエスは子供を重視する（マタ18：10，14；ヨハ21：15）

3、如何にして教えるか？

胎教（ルカ1：39～44）

言葉をもって教える（箴1：8、31：1～2；申6：7； テモ3：15）

愛の鞭（箴13：24、19：18、23：13～14）

身をもって教える（ヨハ10：4；創12：7～8；創26：25）

祈り（ルカ23：27～28；イザ54：13）

結論： 良妻賢母 ハンナ（サム上一章～二章）

家庭と教会の間

序言：

信者は世界にて二つの家がある：一つは肉に属し、一つは霊に属す；即ち「家庭と教会」である（テモ3：15）。如何にしてこの二つの「家」の生活を協調して円満に出来るか？

一、家庭生活

- 1、家事に努める：良き婦人となる（テト2：5） 純潔、 慎み深く、 善良
- 2、子供を養い育てる：良き母となる（テモ5：10） 胎教、 言葉をもって教える、 身をもって教える
- 3、夫を愛する：良き妻となる（テト2：4~5） 友達、 恋人、 仲間
- 4、父母に孝行する：良き嫁となる（ルツ4：15） 尊重、 気遣う、 養う
- 5、真の神を敬い恐れる：良き民となる（ルカ1：46） 集会、 聖書を読む、 祈る
- 6、ぶどうの木のように：良き子となる（詩128） 、多くの実を結ぶ、 甘い、 満足を知る

二、教会生活

- 1、まじめに集会する（ヘブ10：25；ヤコ4：8）
- 2、喜んで接待する（テモ5：10；使徒16：15）
- 3、兄弟姉妹を訪問する（ルカ1：39~40；マル1：29~31）
- 4、心から甘んじて捧げる（コリ9：6~8；ルカ8：3）
- 5、宗教教育（テモ1：5；箴22：6）
- 6、働き人を助ける（ロマ16：1~4；コリ1：11）
- 7、熱心に証をする（使徒11：19~21、1：8；詩68：11）
- 8、教会の庶務（コリ15：58；ロマ12：1, 4~11）
- 9、熱心に善を行う（テト2：14；使徒9：36~42；ガラ6：9~10）
- 10、切に祈る（使徒1：14、12：5）

三、家庭生活と教会生活を如何にして協調するか？

- 1、主のために働いても家の事を忘れない（テモ3：5）
- 2、軽重を知って緩急に処理する（ネへ6：3）
- 3、思いやりでもなければ無理強いでもない（マタ10：37~38、16：23；コリ8：12）
- 4、仕事を重んじて霊的な修行も軽んじない（ルカ10：38~42；コリ9：27）
- 5、自分の家を愛して、神の家にも忠実である（ルカ2：49~51；ヘブ3：2, 5）
- 6、犠牲でもあり、享受でもある（マタ19：27~29）

結論：

- 1、彼女たちは、若い女たちに、夫を愛し、子供を愛し、 憤み深く、純潔で、家事に努め、善良で、自分の夫に従順であるように教えることになり、したがって、神の言がそしりを受けなくなるであろう。（テト2：4~5）
- 2、「りっぱに事をなし遂げる女は多いけれども、あなたはそのすべてにまさっている」と。あでやかさは偽りであり、美しさはつかのまである、しかし主を恐れる女はほめたたえられる。（箴31：29~30）

夫婦の交流

序言：

夫婦の交流は一つの団体性に属し、教会によって主宰され、組織があり、定期集会があり、テーマを持った説教があり、活動内容があり、働き人がいる事である

本文が指す夫婦交流の範囲は比較的狭く、夫婦二人の交流の事であり、二人が願うなら、何時でも何処でも行うことが出来る

聖書によれば：ふたりはひとりにまさる。彼らはその労苦によって良い報いを得るからである（伝4：9～12）。では、夫婦の交流によってどんな益があるのか？

四点を提議する：

一、祈りの交わり

- 1、二人が心を合わせるなら、天の父は必ず叶えてくださる（マタ18：19）
この二人は：同労者、友達、兄弟、姉妹、親子、教師と生徒……といえる。もっと良いのは夫婦である
- 2、イサクは妻が子を産まなかったので、妻のために主に祈り願った。主はその願いを聞かれた（創25：21）
- 3、同じ事で、ヤコブとラケルは喧嘩し、神に祈ることを忘れた（創30：1～2）
- 4、夫婦が心を合わせて、日々定時に相手のために、子供のために、家庭のために、教会のために、御働きのために祈る
また、特別な日に：例えば結婚記念日、誕生日……など、夫婦は更に祈りをもって神に感謝すべきである

二、真理を分かち合う

- 1、神の御言は尊い（テモ3：15～17；詩119：105）
- 2、夫婦が真理を理解できれば、更に主のために働き、素晴らしい成果を上げることが出来る（使徒18：24～26）
- 3、夫婦で聖書を読む進度を定める（聖書を読む記録表を参照する）
- 4、毎週、或いは毎月一回一緒に「心得を分かち合う」；聖書を読んで感じた事、説教を聴いた感想、質疑の問答など
- 5、真理の上における交わりと分かち合いは、非常に喜ぶことであり、益あることである（エレ15：16；エゼ3：1；ネへ8章）

三、生活の情趣

- 1、イサクとリベカが戯れる（創26：8）

- 2、ナバルとアビガイルはこのような情趣が欠けていた（サム上25：3，17，36）
- 3、ダビデとミカルも互いを受け入れない（サム下6：16～23）
- 4、生活の情趣にはリラックスして遊べる生活を指し、例えばピクニック、読書、音楽を聴く、茶を点てる、散歩、花を植える……事である。生活の情趣には、同じ趣味やユーモアがあって、互いに気遣い愛するが含まれる

四、仕事を共に負う

- 1、家庭の仕事は互いに助け合う（ロマ13：8）
- 2、共に教会のために働く（ロマ16：3～5）
- 3、苦しみを共に担い、喜びを共に分かち合う（ロマ12：15）

結論：

夫婦生活の円満は、二人だけの幸せではなく、直接、間接的に上の代と下の代の生活に影響する。もし、このように簡単に行える夫婦の交流を進めることが出来れば、家庭生活を更に楽しく、円満にすることが出来る

キリストと婦人

序言

キリストは子供を愛し、全ての人を愛した。主は更に婦人を気遣い、説教の中でも常に婦人について語られた（ルカ15：8、11：31、17：32、35；マタ13：33）

一、キリストは婦人を気遣う

1、イエスは婦人の病を癒す

12年間長血をわずらっている女を癒した（マル5：25～34）

18年間かがんだまま、背を真っ直ぐに出来なかった女を癒した（ルカ13：11～13）

ペテロのしゅうとめの熱病を癒した（マル1：29～33）

ヤイロの娘を死から蘇らせた（マル5：22～24、35～43）

2、イエスは婦人の罪を赦した

罪の女の罪を赦した（ルカ7：36～50）

姦淫を犯した女の罪を定めなかった（ヨハ8：3～11）

3、イエスは婦人を憐れんだ

カナンの女の呼び求めに応え、悪霊にとりつかれた娘を癒した（マタ15：22～26）

ナインのやもめを憐れみ、彼女の一人息子を復活させた（ルカ7：11～17）

4、キリストはサマリヤの女に福音を伝えた（ヨハ4：7～26）

5、母親の生活を心配し、母をヨハネに託した（ヨハ19：26～27）

6、イエスは婦人を尊重し、男に妻を出して、ほかの女を娶ってはいけない、自分の妻をそむいてはいけないと言われた（マル10：9、11）

二、キリストは婦人を褒める

1、貧しいやもめが捧げたレプタ二つは、誰よりも多く捧げたと称えた（ルカ21：1～4）

2、カナンの婦人の信仰を称えた（マタ15：28）

3、マリヤは良い方を選んだと称えた：神の御言を愛慕する（ルカ10：39、42）

4、マリヤは香油を捧げ、イエスのために良い事をした。福音が伝えられる所には、マリヤのした事も記念して語られる（マル14：3～9）

三、婦人はキリストを愛した

1、多くの婦人は自分のお金と物をイエスと弟子達に供給した（ルカ8：1～3）

2、マルタは喜んでイエスを接待した（ルカ10：38～42）イエスに仕えた（ヨハ12：2）

3、多くの婦人はイエスに従い、イエスに仕えた（マタ27：55～56）

4、婦人達はキリストが十字架につけられる事を嘆き悲しんだ（ルカ23：27～28）

5、キリストが十字架につけられた時、多くの弟子達が四散したが、多くの婦人達が十字

架の側で佇んでいた（ヨハ19：25～27）

結論：

キリストは婦人を愛し、婦人を思いやり、婦人を尊重し、婦人を救った
婦人は更にキリストを愛し、キリストの大いなる恵みに報い、キリストの大いなる徳
を宣べ伝えるべきである（ヨハ4：27～42；詩68：11）

主の内にいる婦人への期待

序言：

多くの人が男性を重んじ、女性を軽んじるが、聖書では女性を軽んじない（ガラ3：27～28；マタ1：1～17；士5：6～7，12，24）

イエスは各地を周遊して福音を伝え、婦人から多くのお金と物を供給して貰った（ルカ8：1～3、10：38）

ある婦人達は常にイエスに従い、イエスに仕えた（ヨハ12：2；マタ27：55～56）

イエスが十字架につけられた時、弟子は皆離れたが、婦人だけは最後まで守り通した（マタ26：31；ヨハ19：25）

初代教会の建立は、婦人達も基礎作りに参与した（使徒1：14）

以上の事からも分かる様に、聖書の中では婦人を軽んじないだけではなく、却って婦人を重視し、尊重し、力を借りた。故に、主の内にいる婦人達に、私は以下のような期待をかけている。願わくは、共に励まし合いたいと思う

一、良き妻となる

- 1、妻の重要性（コリ11：9；箴14：1）
- 2、良き助け手（創2：18；箴31：10～12）
- 3、良き伴侶となる（伝4：9～12；コリ6：14；ペテ3：1～2）
- 4、容貌と服飾に注意する（テモ2：9～11；ペテ3：3～6）
- 5、絶えず向上する（箴11：22、14：24、31：25、26）
- 6、常に祈りに頼る（参考：出エジ17：8～11；マタ18：19）
- 7、悪婦とならない（箴14：1下、21：9，19、30：23）
- 8、賢い婦人となる（箴12：4、31：10～12，28～29）

二、良き母親となる

- 1、母親の重要性（テモ1：5；出エジ2：2；ルカ2：19，51；サム上1～2章）
- 2、神から託された嗣業（詩127：3；創33：5、48：9）
- 3、イエスは子供を重視する（マタ18：10、19：13～15）
- 4、子供を教え養う（箴22：6；ヘブ12：8）
- 5、如何にして教えるか？（箴31：2；27：23～24）

胎教（ルカ1：39～44）

言葉をもって教える（箴1：8、3：1～12、31：1～2；申6：7）

鞭をもって教える（箴13：24、19：18、23：13～14）

身をもって教える（テモ1：5；ハンナ；マリヤ）

霊的な教え（イザ54：13；テモ3：15；ルカ23：27～28；ヨハ14：26；ヨハ2：

三、良き嫁となる

- 1、家事に専念し、無駄飯を食べない(箴31：27, 13~19)
- 2、義父と義母に孝行する(ルツ4：15；エペ6：1~3)
- 3、全ての人と平和に過ごす(詩133：1、37：37；ロマ14：19、12：10, 16~21)
- 4、告げ口をしない、唆さない(箴26：20~28、18：8, 19、16：28)
- 5、隠さない、浪費しない(箴28：24、18：9)
- 6、塩となり、光となる(マタ5：13~16)

四、良き信者となる

- 1、熱心に礼拝する(使徒16：13~14；詩122：1；ヘブ10：25)
- 2、熱心に主に仕える(ロマ12：11；ペテ4：10~11；マル1：31；ルカ10：40；マタ27：55)
- 3、熱心に善を行う(テモ5：10；ガラ6：9~10；ロマ16：1~2；使徒9：36~42)
- 4、捧げ物で人の後れを取らない(ルカ8：1~3、21：1~4；マル14：3~9；出エジ35：22, 25~26)
- 5、言葉を慎む(テモ5：13；箴17：27~28)
- 6、静かに御言を学び、従順になる(テモ2：11~14；ペテ3：4；ルカ10：39, 42)
- 7、伝道者と共に働く(ロマ16：3~5；使徒16：15, 40；マタ10：40, 41)
- 8、教会のために祈る(コリ1：11；イザ62：1)

結論：

主は命令を下される。おとずれを携えた女たちは大いなる群れとなる(詩68：11)
彼らはリベカを祝福して彼女に言った、「妹よ、あなたは、ちよろずの人の母となれ。
あなたの子孫はその敵の門を打ち取れ」(創24：60)

聖書を読むことと聖書を調べること

聖書を読む七つのポイント

序言：

神の御言は重要であり（マタ4：4；詩119：105）、神の御言は尊い（詩119：72）

一、切に、常に

- 1、常に読む（箴3：21；申6：7）
- 2、心から切に読む（出エジ16：21；詩119：147～148）

二、思う

- 1、昼も夜も思う（詩1：2、119：97；ルカ2：19）
- 2、思う事に恵みがある（ヨシュ1：8）

三、調べる（研究する）（イザ34：16）

- 1、霊的な知恵の増長（ダニ12：4；ルカ2：46）
- 2、永遠の命を得る（ヨハ5：39；使徒17：11）

四、祈る

- 1、封じた書物（イザ29：11；黙5：1；テモ3：16）
- 2、聖霊によって開かれる（ヨハ16：13；コリ2：10～11；ダニ10：2～3，12；詩119：18）

五、宿らせる（コロ3：16）

- 1、紙を用いる、筆記する（申6：6～9）
- 2、心に留める（箴4：21；詩119：11）

六、守り行う

- 1、食べ物として食べる（エレ15：16）
- 2、守り行う者は祝福される（ヤコ1：22～25；黙1：3；ヨハ13：17）

七、伝え広める（詩119：13）

- 1、内に対して（詩71：15～18；詩78：5～7）
- 2、外に対して（テモ4：2～5；ユダ3）

結論：

ヨブは食物より神の御言を重んじた（ヨブ23：12）。神の御言は、お金や物質より尊い。
よって、常に思うべきである（詩119篇；箴3：1～2, 21～24）

聖書を読むと益がある

序言

- 1、聖書は世界で最も尊く、最も重要で、人類にとって最も必要な本である
- 2、聖書は世界で最も著名であり、訳本も最も多く、最も売れている本である
- 3、イエスは言われた：「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」（ヨハ5：39）。使徒パウロは言った：「あなたが来るときに……。また書物も、特に、羊皮紙のを持ってきてもらいたい」（テモ4：13）

一、聖書の権威

聖書は神話ではなく、神の御言である；神話を語るのではなく、神の御言を語るのである；簡単に言えば「神が語っている」

1、崇高性

宇宙の主宰であり、王の中の王の書である 真の神が黙示し、宣告した（テモ3：16；エレ6：9；テサ2：13）

2、真実性

偽りや空洞はなく、必ず真実性がある。真の神は信実の神であり、御言に虚偽は一切なく、完全に真実である（ヨハ1：9；詩19：9、89：33～35；コリ1：20）

3、正確性

聖書は預言の書である、預言とは：「神はその僕たちに未来の事を予め伝えた」の意味である。聖書の中の預言は、一つ一つ完全に成就された

4、普遍性

聖書は人類のために書かれた。いかなる国籍、地域、種族、階級、貧富、性別……などを問わない。聖書は普遍的な書物であり、神が全世界の人類に与えた知らせである（詩19：1～4；マル16：15）

5、永久性

神の御言は永遠に残り、時間に支配される事もなければ、制限されることもない。天地が滅びようとも、神の御言は天に堅く定まり、永久不変である。聖書は永遠に新しい本である（詩119：89；イザ40：8；マタ24：35）

二、聖書を読むと益がある

- 1、人を救いに至らせる（ テモ3：15；詩119：98～99）
あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です（詩119：105）
世の知識は人を驕らせる（ コリ8：1）、聖書は人が神を恐れ敬う知恵を身につけ、救いに至る（箴9：10； コリ1：18～31）
古の教父アウグスティヌスが良い例である（参考：ロマ13：12～13）
- 2、人を聖なる者とする（ヨハ17：17）
人は清くなければ、神を見る事は出来ない（ヘブ12：14；マタ5：8）
神の御言葉は人を清く保たせる（詩119：9；エペ5：26）
神の御言葉は一枚の鏡の様に、私達の短所を映し出し、進んで取り除き、汚れを落とし、聖なる者となって救いを得る（ヤコ1：23；ヘブ4：12）
- 3、霊的な命を成長させる（ ペテ2：12）
神の御言葉は霊の糧であり、常に食べ、多く食べれば、人の霊的な命も豊かに、活きたものとなる（ヨハ6：63、10：9～10；エレ15：16）
心を新たにして、造りかえられ、もはや子供のようにではなく、霊的な命がキリストの満ち満ちた徳にまで至り、神にかたどって造られた新しき人となる（ロマ12：2；エペ4：13，21～24）
- 4、霊的な武器である（エペ6：17）
イエスは聖書の言葉をもって、悪魔の試みに打ち勝った（マタ4：1～10）
信者はキリストの精兵であり（ テモ2：3）、御霊の剣を持って悪者と戦い、必ず敵に打ち勝つ事が出来る（黙12：11）
- 5、その他
聖書を読む事は、人に自由と平等を思わせる（ガラ3：26～29；ヨハ8：32～36）；
悪い風習を取り除き、人が神の御旨を知る事が出来る……（エペ5：17； テモ3：16～17）
聖書を読み、更に聖書の言葉を信じるなら、個人の幸せや家庭の円満について益があるだけではなく、社会の安定や国家の隆盛についても莫大な貢献がある

三、世界の有名人の証

聖書を読む益は実に多く、一言では言い尽くす事は出来ない。世界の有名人の聖書に対する賞賛を見てみよう。聖書を読む事の影響力が如何に大きいかきっと驚く事だろう。

- 1、故蒋介石総統は、自分が聖書を好きなだけでなく、聖書こそ真理であると深く信じ

ていた。故に、国民に聖書を読み習うことを勧めた

- 2、リンカーン（アメリカ第十六代大統領）は言った：「聖書は神が人に与えた最も良いプレゼントである。私は聖書を読んで、多くの益を得た。あなたもこの書の全てを吸収するよう勧め。このようにして生きても、死んでも、良い人とならせる」
- 3、ナポレオン（フランス総統）：「聖書はただの本ではなく、活きた被造物であり、その書に反対する人に打ち勝つ力を持っている」
- 4、ニュートン（科学者）：「私たちが見る聖書は、最も崇高なる哲学である。私が聖書で見つけた真理は、世界の如何なる歴史よりも多い」
- 5、ジェファソン（アメリカ第三代大統領）：「私は度々言っているが、更に続けて言う、聖書を真面目に読めば、国民の徳を更に高め、更に良い父となり、夫となる」
- 6、マッカーサー（軍事家）：「先生、信じて下さい。私はどんなに疲れていても、必ず聖書を読んでから床に就きます。一晩も欠かした事はありません」
- 7、エジソン（大発明家）：「聖書は人類の行いについて、最も偉大且つ崇高な模範である；人生の道標を指し、片時も離れない指南をしてくれる」
- 8、ゲーテ（ドイツの詩人）「私の全ての思いは、聖書に対する信仰から来る。私の道徳生活や文学著作は全て聖書から得た啓示による。聖書は私が生涯頼れる豊富な資本であり、取っても使っても尽きない宝庫である」
- 9、グラッドストーン（イギリス首相）：「人類の苦悩、煩いを解決するには、一つの治療法しかない。それは、聖書を読む事であり、その中の言葉を信じるのである」
- 10、ヴィクトリア（イギリス女王）：「ある人が彼女に聞いた：イギリスがこれほど偉大な民族になった秘訣は何ですか？彼女は一冊の聖書を出して言った、これこそがイギリスが偉大な民族になれた秘訣です」

四、聖書を読む方法

聖書を読む方法は多くあり、人や目的、時節や場所によって異なる

1、一気に読む

考えが整う 前後が一貫する 趣味がある 不単調である

2、量を定めて読む

一日十章 一日五章 一日一章 （注：聖書は全部で一一八九章）

3、時間を定めて読む

一日一時間 一日三十分 一日十五分 一日十分 朝食前 就寝前

随時

4、その他

何時でも何処でも

形式に拘らない

段落を選んで読む（人物、歴史、教義、詩歌、預言……など）

五、聖書を読む態度

- 1、祈る（ヨハ16：13；ルカ24：45）
- 2、信じる（ヘブ11：6、4：2；ヤコ1：5～8）
- 3、慕い求める（マタ5：6；詩119：103；エレ15：16）
- 4、熱心（使徒17：11；出エジ16：21；詩119：147～148）
- 5、謙る（イザ50：4～5；マタ5：3；使徒8：30～31）
- 6、思う（詩1：2、119：97；ヨシュ1：8）
- 7、調べる（イザ34：16；ダニ12：4；ルカ2：46）
- 8、心に留めて記す（申6：8～9；箴4：20～21；コ口3：16）
- 9、守り行（黙1：3；ルカ11：27～28；ヤコ1：22～25）
- 10、伝え広める（エゼ3：1；マタ10：27；テト1：3；黙10：8～11）

結論：

連合国ビルの基礎作りの時、一つの儀式が行われた。一冊の聖書を瓶の中に入れ、地下の穴の中に置いた。聖書こそ真の世界平和の基礎である

探検家スタンリーがアフリカ横断を敢行するとき、彼は七十三冊の本を持っていたが、旅の艱難に伴い、考えた末、荷物を軽くするため、多くの本を捨てたが、一冊だけ残した。それが聖書である

ジョージ・ミュラーの経験談：「私は努力して聖書の中について調べてみたら、その幸いは何と奇しきことかと思った。私は聖書を百回読んだが、読めば読むほどに味がある。私は毎回読むごとに新しい本を読んでいる様な感じがする。一日聖書を読まない、一日の時間を無駄にしたような気がする

世界で有名なヘレン・ケラーは、聖書の愛好者である。聖書学会が彼女に二十冊の点字聖書を送り、彼女は手紙でこう言った：「私は聖書の側に座り、敬愛を持って聖書に触れた。四十年来、私は神の御言葉を愛し、感謝の心を込めてこの尊い書物に触った。聖書は私の杖であり、痛ましくさびしい、災禍の幽谷にいた私を支え、躓くに至らせなかった。そう、聖書は 人を救いに導くおしえである 暗闇から人を導く唯一の道である

イエスが十二歳の時、神の宮にて、教師の間に座り、神の御言葉を聞きながら問いかけた、私達の良き模範である（ルカ2：46）

テモテには偽りのない信仰があり、パウロと共に労苦を受け、主の福音のために捕らえられても恥としない。その基本は「幼いときから聖書に親しむ」（テモ3：15）こと

である

青年達は人生の素晴らしい時間をしっかり掴んで、聖書を愛し、聖書を多く読んでほしい。更に「聖書を手元に置き、毎日聖書を読み、何度も聖書を読み返す」

創世記の教え

序言：

もし、「聖書」が一つの花園であるなら、創世記は種のようなものである；種があるからこそ花園にも花が咲き、果実を結ぶ。創世記には「初め」、「起源」の意味がある。その中には宇宙の中にある多くの事の起源が記されている。それは聖書六十六巻の第一巻であり、真理の奥義の根幹でもあり、内には多くの預表や霊的な教えが隠されている。私達が再三に亘って思考、研究するに値する。願わくは、聖霊の導きと啓示によって、私達が理解できるように。

一、祈りの生活

- 1、エノスの時代、人は神の御名を呼んだ（4：26）
- 2、ノアが箱舟を出た後、祭壇を築いて燔祭をささげた（8：20～21）
- 3、アブラハム
 - 彼は至る所で祭壇を築いた（12：7～8、13：18、21：33）
 - ソドムの人のために祈った（18：23～33）
 - アビメレクのために祈った（20：7～17）
- 4、イサク
 - 婚姻のために祈った 野にて黙想する（24：63）
 - 妻の不妊のために祈った（25：21）
 - 祭壇を築いて神の御名を呼ぶ（26：25）
 - 子供達を祝福する（27：27～29、39～40）
- 5、ヤコブ
 - 誓いを立てて祈る（28：20～22）
 - 兄との仲直りのために祈る（32：9～12）
 - 神と組み打ちをして勝つ（夜通し）（32：22～26）
 - 子と孫のために祝福する（48：15～16、49章）
- 6、その他
 - アブラハムの老しもべ（24：12～14、26～27、48、52）
 - メルキゼデク（14：18～20）
 - リベカの兄と母（24：60）

二、真理を宣べ伝える仕事

- 1、エノク（5：21～24）
 - 主の再臨を宣べ伝える（ユダ14）
 - 主のさばきを宣べ伝える（ユダ15）

- 神に取られた（5：24）、初めて死を経ないで昇天した人
- 2、ノア（5：28～32、6：9）
- 義の道を伝える（ペテ2：5）
- 神の霊に頼って宣べ伝える（ペテ3：19）
- 百二十年間真理を宣べ伝えた（6：3；参考：5：32、7：11）
- 全家族が救いに至る（7：13～16；ヘブ11：7）
- 3、ロト（19：14）
- 罪の城にいる人々のために日々悲しんだ（ペテ2：7～8）
- 神のさばきが来ると宣べ伝えた（19：14）
- はじめに親族に言った（婿たち）（テモ5：8；使徒1：8）
- 神によって救われた（ペテ2：7～8）

三、真の教会の預表

1、エデンの園

エデンの園は喜びと楽しみの園であり、即ち楽園である。霊的な真の教会を預表する（エレ33：9、31：11～12；イザ51：3）

エデンの園は神が設けた（2：8）

真の教会も神が設けた（ヘブ8：2；コリ3：9）

エデンの園は東の方にある（2：8）、真の教会も東の方より現れる（黙7：1～3；エゼ43：2；イザ24：15）

園には多くの美しくおいしい実がある（2：9）、真の教会の信徒にも多くの善い実が結ばれる（ガラ5：22；エペ5：8～9；コロ4：12～14）

川が園を潤す（2：10～14）。真の教会にも生ける川の如く聖霊が人の心を潤す（ヨハ7：37～39；黙22：1～2；詩46：4）

園には金やいろいろな宝石が産出される（2：11～12）真の教会には真理があり（マタ7：6；黙3：18；テモ3：15）、いろいろな信仰と徳がある（ロマ1：8；ペテ1：7；ペテ1：5～8）

万物は平和に、互いを害さない（2：19～20）、真の教会の信者は和睦同居し、互いに愛する（イザ11：6、65：25；使徒2：44～47）

罪人はその中には住めない（3：23～24）、罪人は必ず真の教会から追い出される（黙22：14～15；コリ5：13；ヘブ10：26～27）

2、エバ

アダムはキリストを預表し（コリ15：45；ロマ5：14）、エバは教会を預表する（エペ5：22～32；黙21：2、9～10）

神は人を眠らせ、あばら骨を取って、エバを造った（2：21～22）、キリストが十字架につけられ、あばらを刺され、血と水が流れた。バプテスマを通して新しき人と

なり、新婦となる（ヨハ19：30～34；テト3：5； コリ11：2）

アダムは言った：「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉」（2：23）、
教会はキリストの骨の骨、肉の肉である（エペ5：30）

アダムとエバは結ばれて一体となる（2：24）。キリストと教会も結ばれて一体となる（エペ1：23； コリ12：12～13）

アダムとエバが万物を治める（1：26～28）、キリストと教会は共に王権を司る（黙5：9～10、2：26、3：21； テモ2：12）

3、箱舟

ノアの箱舟は世の終わりの真の教会を預表する。故に、真の教会は「世の終わりの箱舟」ともいわれる。その理由は以下の通りである：

世界が洪水によって滅ぼされる前に造った（6：11～14）、真の教会は大きな火で滅ぼされる前に建てられた（黙18：4～5； マラ4：5～6； アモ9：11）

神の指示した方法に完全に従って箱舟を造った（6：14～16，22）。真の教会の建立も、完全に聖書に基づいている（マタ28：20； エペ2：20； ガラ1：6～9）

方舟は一艘しか造れない（6：14）、救いに預かる真の教会も一つしかない（エペ4：4； コロ6：9； ヨハ10：16）

箱舟に入れば全てが救われ、箱舟の外は全てが滅ぼされる（7：13～23）。イエスを信じ、バプテスマを受けてキリストに帰するなら、必ず救われる。信じなければ必ず滅ぼされる（ペテ3：21； マコ16：16； テト3：3； ヨシュ2：18～19）

箱舟の中にいるのは、全部家族である（7：13； ペテ3：20）。真の教会の中にいる人も、全て霊的な家族である（エペ2：19； テモ3：15）

箱舟を造りながら、義の道を伝える（真の神の寛容の期間）（6：3； ペテ2：5）。真の教会も積極的に福音を伝え、誰もが悔い改めて救いを得る事が出来るように（ペテ3：9； コリ6：2）

箱舟を出て新しい世界に入る（8：15～22）。世の終わりが来て、キリストが再臨する時、真の教会の信者は、迎えられて新しい天と新しい地に入り、永遠の幸せを享受する（ペテ3：7～13； マタ25：34）

4、リベカ

イサクはキリストを預表し、リベカは真の教会を預表する

イサクの愛する妻（24：67）。教会はキリストの新婦であり、キリストが愛される（黙21：9～11； エペ5：22～32）

リベカは容姿が美しく、清く、慈しみ、信仰があって、謙っていた（24：16～20，57～58，64～65）。真の教会にも新婦の全ての美德を備えている（黙21：2，19：7～8； コリ11：2； エペ5：26～27； ペテ3：2～6）

リベカは金の飾りと衣服を証とした（24：53）。真の教会は主から恵みと真理を受け（ヨハ1：16～17）、また、聖霊を証印とする（エペ1：13～14； コリ1：21～22）

夕暮れになって、イサクは野に出てリベカを迎え、天幕に連れて行き、妻として娶り、彼女を愛した（24：63～67）。世の終わりの時、主は必ず天から降り、真の教会を迎えて栄光の天国に入らせ、永遠に互いを愛する（テサ4：16～17；黙19：7～8）

結論：

創世記の部分的な真理と教えを調べた後、皆が霊的な修行に力を入れ、霊的な知識に充実される事を期待している。主のために力を尽くして働き、恵みを貢献して教会に奉仕し、キリストの御名が大いに栄えられるように。

創世記から真の神を知る

序言：

創世記には多くの真理が隠されている。とても豊かな霊的宝庫といえる。創世記に基づいて、「真の神」に関する事項を調べて、私達は更に深く神を知る事が出来る

一、天地創造の神（創1：1）

- 1、創世記の中では、私達に神がいる事を知らせ、神は天地万物を創造し、その種類に従って造られた（創一章）
- 2、真の神は天地万物と人類の始祖を創造した。故に、神は「天地の主」とも称された（創14：19）
- 3、真の神は天地の主であるから、人の手によって仕えられる必要もなければ、人の手によって造られた宮に住む事もない（使徒17：24～29）
- 4、私達は霊とまこととをもって礼拝すべきである（ヨハ4：24）

二、全能なる神（創17：1）

- 1、神は無から万有を造りだし、神が言えばそのようになり、命じれば堅く立つ（詩33：6，9；ヘブ11：3）
- 2、子を産めないサラに息子を一人産ませた（創21：2～5）
- 3、神にとって不可能はない（創18：14）

三、永遠の神（創21：33）

- 1、神は唯一の不死の存在であり、永遠の神である（テモ6：16；イザ40：28；黙11：16～17）
- 2、神は人に永遠の命と（テモ6：12）、永遠の慰めと（テサ2：16）、永遠の栄光（コリ4：17）を与えた
- 3、神は肉体となったイエス・キリストである。イエスを知り、イエスを信じれば、永遠の命がある（ヨハ17：3、3：16）

四、人を顧みる神である（創16：13）

- 1、神はつかえめハガルを顧みた（創16：6～13）
- 2、神はヤコブを顧みた（創28：20～22、33：18）
- 3、神はヨセフを顧みた（創39章、41：39～45）
- 4、神は苦しむ人、やもめや孤児、病気のある人（詩10：14、146：9）、また、神に全て求める人を顧みる（詩138：6；イザ66：2）

五、人の一生を牧養する神である（創48：15）

- 1、ヤコブは神が彼の一生を顧み、養われたので、年老いた時にこの言葉を持って彼の子孫を励ました
- 2、神は実りの季節を与えられ、食物と喜びとで私達の心を満たした（使徒14：15～17）
- 3、神を恐れる者に乏しいものはない（詩34：9～10）

六、人に祈りを聞く神である（創25：21）

- 1、神はイサクの祈りを聞き入れた（創25：21～26）
- 2、神はアブラハムの助禱を聞き入れた（創19：29、20章）
- 3、神はアブラハムの老しもべの祈りを聞き入れた（創24章）
- 4、神はヤコブの祈りを聞き入れた（創28：20～22、32：9～12、33章）
- 5、凡その事は祈りを通し、求めるものを神に申し上げる（ピリ4：6～7；詩37：5）

七、全地をさばく神である（創18：23，25）

- 1、神は善を称える（ネヘ9：7～8；創22：12～18）
- 2、神は悪を罰する（ペテ2：4～8）
- 3、世の終わりの時、神は各々が行った事に従って報いられる（ロマ2：6～11；ヘブ9：27）
- 4、私達は人として如何に清く、敬虔になり、新しい天と新しい地に住むことを待ち望むのか（ペテ3：11～13）

結論：

あなたは神と和らいで、平安を得るがよい。そうすれば幸福があなたに来るでしょう（ヨブ22：21）

七祭の霊的な教え

旧約時代に真の神はモーセを通して、イスラエル人に守るべき祭礼が七つあると教えられた、それが：過越祭、除酵祭（種入れぬパンの祭）、初穂祭、五旬節、角笛祭、贖罪日、仮庵祭（レビ23章）。神が教えただため、この七つの祭礼を「主の祭礼」とも称され、必ず守らなければならない祭礼である。律法は来るべき良い事の影である（ヘブ10：1）；旧約時代の燔祭の条例、飲食の規則、清めの儀式は来るべき者の影であって、その本体はキリストである（コロ2：16～17）。今日、私達はこの「祭礼の条例」を一つ一つ守る必要はない。しかし、この祭礼がクリスチャンの霊的な修行において、非常に大事な預表と教えがあり、私達は知らなければならない。順序に従って以下の通りにまとめた：

一、過越祭

1、聖句：レビ23：4～5；出エジ12：1～14；民9：9～14

2、日時：期日は一日、正月十四日の夕方（レビ23：5）

3、預表：

過越祭の羊がほふられて血を流す事は、キリストの死を預表する（ヨハ1：29；コリ5：7）

過越祭での食事は、主の聖餐を食べることを預表する（ルカ22：14～20；コリ10：16～21、11：22～31）

4、その他：

過越祭を守る態度（出エジ12：11）

過越祭を守る資格（出エジ12：45～50）

故意に過越祭を守らない人は、その民から断たれる（民9：9～14）

二、除酵祭（種入れぬパンの祭）

1、聖句：レビ23：6～8；出エジ12：12～20、13：6

2、日時：除酵祭は七日間守る。正月十五日から二十一日まで

3、預表：

キリストが世の人の罪を除くため、代わりに死す事を預表する

救い贖われた人が、生涯を通して内外の悪を取り除き、清い生活を送ることを預表する

4、条例：

種なしパンを食べる（出エジ12：15）

七日間食べる（レビ23：6；出エジ13：6）

家からパン種を取り除く（出エジ12：15，19）

境内の如何なる所にもパン種を置いてはならない（出エジ13：7、12：20）

種を入れたパンを食べる人は、必ず断たれる（出エジ12：15，19）

三、初穂祭

1、聖句：レビ23：9～14

2、期日：安息日の次の日、正月十六日

3、預表：

キリストが死から蘇り、初穂となる事を預表する（コリ15：20）

信者がバプテスマを受けて主と共に復活することを預表し（コロ2：12）、新生の実として神に捧げる

四、五旬節

1、聖句：レビ23：15～22

2、期日：初穂祭から数えて満七週の安息日の翌日、三月六日まで五十日を数える。故に五旬節と名付けられる

3、預表：

聖霊が降り、教会を建てる（使徒二章）

4、その他：

新穀の素祭では麦や穂ではなく、二つのパンをささげる。これは、信者が聖霊の中において心を一つにし、個性を打ち消し、結び合って一つとなる事を表す（エペ4：2～4；使徒2：42～47）

二つのパンは、種を入れて焼いた後ささげる：二つのパンは聖霊によって教会は二回建てられる事を表し、即ち前の雨と後の雨によって建てられる教会である（ヤコ5：7）。種を入れる：教会内にはまだ不完全な一部がある事を表す。焼いた後ささげる：種が焼かれる事は、その作用を失くす事であり、火で精錬された後、教会は完全になると表す。前四つの祭礼は上半期、前の雨の時代（使徒時代）において成就された。後三つの祭礼は下半期、末世の後の雨の教会において成就される。

五、角笛（ラッパ）祭

1、聖句：レビ23：23～25；民29：1～6

2、期日：七月一日

3、預表：末世の真の教会は福音を伝え、警告を報せる使命を負う

4、教訓：

ラッパは世の人の過ちと罪を告げ示す（イザ58：1）

ラッパは警告を報せる（ヨエ二章；アモ3：6；エゼ33：1～5）

ラッパは選民を呼び集める（イザ27：13；マタ24：31）

ラッパはヨベルの年を知らせる（レビ25：8～12）

六、贖罪日

1、聖句：レビ23：26～32；民29：7～11

2、期日：七月十日

3、預表：

キリストは大祭司であり、自分をささげて永遠の贖いを全うした（ヘブ9：11～14）

信者は罪が清められ、贖いの日が来る事を待ち望む（ロマ8：23；エペ4：30）

末世の真の教会は力を尽くして主の真理を伝え、信じて主に帰した人が主の尊き血によって贖われた（コリ6：2；ロマ3：25；使徒2：38）

4、その他：

贖罪日に身を悩まさない者は、民のうちから断たれる（レビ23：27）。罪を清めるためには、自分を打ちたたいて服従させる生活を送る事を表す（コリ9：27）

七、仮庵祭

1、聖句：レビ23：33～34；民29：12～40

2、期日：七月十五日から二十一日まで（贖罪日の五日後に始まり、七日守る）

3、預表：

信者は罪が贖われ、天国での安息を仰ぎ望む

真の信者は地上では旅人であり、寄留者である。天にある永遠のふるさとを望む（コリ5：1～5；ヘブ11：13～16）

神が世界を収穫する働きを終えた（黙14：14～20）のは七月十四日であり、七月十五日には、民は神の御前にて喜び楽しむ（レビ23：40；黙21：3～5）

結論：

以上の七祭礼は霊的な意味の上においては、真の教会を表す；特に、真の教会が各地で行われる霊恩会は、正に七祭礼を一つにまとめ、七祭礼の預表、霊的な意味を全て全うした。また、真の教会だけが確実に七祭礼の霊的な意味と預表を表す事が出来る。

逃れの町の預表

「逃れの町」は逃避する町、避難所である。イスラエル人がカナンの地に入る前、神は特別に六つの町を選んで罪人の逃れの町とさせた。その意義は実に大きい。今日、神は多くの所に逃れの町を設け、正に昔の逃れの町に似ている。逃れの町に関する全貌を明らかにするため、申命記、ヨシュア記にて記載されている逃れの町に関する事を合わせて調べれば、更にはっきりと理解する事が出来る。

一、旧約の逃れの町

- 1、神自ら設けられた（民35：9～11；ヨシュ21：1～2，7～8）
- 2、設立の目的：無心で誤って人を殺した場合、血の復讐をする者に殺される事から逃れるため、町の中に逃げる（民35：22～25；ヨシュ20：3～5；申19：4～5）。しかし、故意に人を殺した場合には、惜しみ顧みる必要はない（申19：11～13）
- 3、設立された場所：ヨルダン河の東と西にそれぞれ三つの町を設立した（民35：13～14；ヨシュ20：7～8）。分布された状況は普遍的であり、誰もが知る所である。
- 4、逃れの町に向かう道を備え、広く阻まれる事がないようにする（申19：3，6）
- 5、収容の種類：種族、階級の区別なく、無心で人を殺した場合は、誰でも逃れる事が出来る（民35：14～15；ヨシュ20：9）
- 6、収容期間：誤って人を殺した場合は、逃れの町に住み、聖なる油を注がれた大祭司が死ぬまで居なければならない。大祭司が死んだ後、彼は自分の所有の地に帰ることが出来る（民35：25，28；ヨシュ20：6）

以上は聖書の記載に基づき、昔の逃れの町の設立の経過を述べたものである。以前に書かれた聖書は、私達末世の人のための教訓であり、来るべき良い事のかげである。逃れの町の真理に関しては、多くの預表と霊的な教訓が含まれ、理解しなくてはならない。

二、逃れの町の預表

- 1、律法は来るべき良い事の影であり、本体や真の形ではない（ヘブ10：1；コロ2：17）。真の神は昔の逃れの町の本体であり、真の形であった。なぜなら、「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである」（詩46：1）
- 2、言が肉体となったイエスは、逃れの町の本体を預表する。キリストにこそ、満ち満ちている一切の神の徳が、形をとって宿っておる（ヨハ1：14；コロ2：9）。故に、パウロは言った：「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである」（ロマ8：1～2）
- 3、この末世において、真の神は具体的に教会を通して、罪ある人類を救おうとした；な

ぜなら、この教会はキリストの体であって、全てのものを、全てのものの内に満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならないからである（エペ1：23）。これにより、新約の逃れの町 キリストと教会によって成立を告げる

三、新約の逃れの町

1、真の神自らが設けた

神は罪ある世の人を救うため、キリストを立てて罪のための、贖いの供え物とした（ロマ3：25；ヨハ2：2）。キリストは、天地が造られる前から、予め知られていたのであるが、この終りの時に至って、あなたがたのために現れたのである（ペテ1：20）；それは、イエスを信じる者が、一人も滅びる事なく、永遠の命を得るためである（ヨハ3：16）

神は世の終わりにおいて、更に聖霊やしるしと不思議と様々な力あるわざを通して、世の終わりの逃れの町を立てた 真の教会（エペ1：23、3：10、21；ヘブ2：4）

2、設立の目的：

旧約の逃れの町の設立は、誤って人を殺した者のためにあった；新約の逃れの町は、誤って罪を犯した者のためにある

「誤って罪を犯す」とは何か？即ち、無知であった時に犯した（使徒17：30；ペテ1：14）；迷った羊のように（イザ53：6）；主に帰する前に犯した全ての罪（ルカ19：1～10；ヨハ6：37）

3、設立の場所：

旧約の逃れの町は、普通の場所に立てられ、誰もが知っていた。新約はこの原則に向かって邁進する

神は、全ての人々が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる（テモ2：4）；故に、世界に出て行って、全ての人に福音を伝える事に力を尽くす（マコ16：15；使1：8）、願わくは、御言のために門を開き（コロ4：3）、各地において、普遍的に霊的な真の教会を建て、誰もが知り得るようにする。

4、逃れの町に向かう道

旧約時代において逃れの町に向かう道は、平坦に修築して、障害物を排除した。誤って人を殺した者が無事に逃げるためである

バプテスマのヨハネは主の伝道のため、先鋒を務め、主の道筋を真っ直ぐにし、主の道を備え、人に悔い改めるよう促し、人を導いて主に帰した（マタ3：1～3）

信者も順調に人を主の内に帰させるためには、主の道を備えなければならない；躓きとなる物を置いてはならない。自分を害して人を誤らせないためである（ロマ14：13；マタ18：7）。異邦人の中にいる時は、更に品行方正をする。それにより人を感化し、神を栄える（ペテ2：12；マタ5：16；ペテ3：1～2）。悪を行い、罪を犯して、神の御名を異邦人の中で汚し、人々が主に帰する事に影響を及ぼしてはなら

ない(ロマ2:24)

5、収容の種類：

旧約の逃れの町に収容される人は、種族、階級、貧富、貴賤の区別なく、誤って人を殺した者なら、誰でも収容する

新約の逃れの町も同じである。この福音は全て信じる者に救いを得させる力である(ロマ1:16、3:22)。主の御前に来る者は、決して拒みはしない(ヨハ6:37)

6、収容の期間：

旧約時代、逃れの町に収容された人は、その時の大祭司が死ぬと、自由を取り戻し、自分の所有の地に帰ることが出来る

イエス・キリストは新約の大祭司である(ヘブ3:1)。イエスは私達の罪のために死に、それによって、私達は自由を得る事が出来た(ヨハ12:24, 32、8:36; ロマ8:2; ガラ5:1)

主が替わりに死なれたので、私達は生まれ変わる事が出来た。私達は天に蓄えてある、朽ちず汚れず、しばむことのない資産を得た(ペテ1:3~4; ヘブ9:11~12, 15)。主は神の国を継ぐ保証である聖霊を私達に与えられた(エペ1:13~14)もし人を殺した者が、その逃げて行ったのがれの町の境を出た場合、血の復讐をする者は、逃れの町の外で、これに出会い、血の復讐をする者が、その人を殺した者を殺しても、彼には血を流した罪はない(民35:26~27)。主に帰した人が、もし、キリストから離れ、教会から離れるなら、その人は命を失う事になる(参考:列王上2:36~46; ヨシュ2:15~21、6:22~25; ヨハ15:1~6)

四、逃れの町の地名に含まれる霊的な意味

旧約における六つの逃れの町は：ケデシ、シケム、ヘブロン、ベゼル、ラモテ、ゴラン(ヨシュ20:7~8)である。この地名の中には、素晴らしい霊的な意義が含まれている。以下のように解釈したので、参考にしていただきたい：

1、ケデシ (KEDESH)

ケデシ、原文の意味は神聖、聖になる

イエスは聖なる方であるから(ヘブ7:26、4:15; ヨハ8:46)、私達も聖なる者とならなければならない(ペテ1:15; テサ5:23; ヤコ3:2)

2、シケム (SCHECHEM)

シケム、原文の意味は肩、背負う、負担する、字義の上においては「早起」の意味を持つ

イエスは私達の罪を背負い、私達の苦しみを担った(イザ53:4)。私達の罪と共に十字架の上に向けられ、私達の罪を担った(マタ27:1~2; ペテ2:24)

主は私達の重荷を背負われたので、私達は全ての思い煩いと重荷を主に委ねよ(詩55:22; ペテ5:7)

3、ヘブロン (HEBRON)

ヘブロン、原文の意味は

A、同盟、連合

B、友誼、友愛

イエスは弟子を友と称した(ヨハ15:15)、主の命じた事を守り行う者は、全て主の友である。この友は兄弟よりも親しく、友のために大きな愛を顕す 友のために命を捨てる(箴18:24;ヨハ15:13~14)

バプテスマを受けて主に帰する事は、主と繋がり、一つの御霊となり、一つの身体となる(コリ6:17;エペ5:31~32)。これら主の内にいる人は、互いに隔てる事なく、一つとなった(ガラ3:27~28)。このような友誼の連合は、主によって得る事ができ、何と尊きことか!

4、ベゼル (BEZER)

ベゼル、原文の意味は

A、金属鉱石

B、強健、堅固

イエスは粗悪な鉱石のように、見るべき姿もなく、威厳もなく、慕うべき美しさもない(イザ53:1~3)

全てイエスを信じる者は、イエスを尊ばなければならない(ペテ2:4;ピリ3:7)。なぜなら、イエスは私達に恵みと真理を与えてくれたから(ヨハ1:14,16;マタ13:44)

イエスは私達の堅固な霊の岩となった(コリ10:4);私達が苦しい時の頼りであり、助けである

5、ラモテ (RAMOTH)

ラモテ、別名ヤルムテ。原文の意味は

A、高地

B、彼は高く上げられる

イエスは言われた:「モーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない」。また、言われた:「わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」(ヨハ3:14、12:32)

イエスは上げられ、十字架の上で死なれた。それゆえに、神は彼を高く引き上げ、全ての名に勝る名を彼に賜った(ピリ2:6~11)。私達は主の御名を高く上げ、力を尽くして救いの恵みを伝え、主の御名を栄える

6、ゴラン (GOLAN)

ゴラン、原文の意味は

A、彼らが捕われる

B、彼らの喜び

イエスは私達のために捕われ、ほふり場に引かれて行く小羊のようであった（イザ
53：7）

イエスが捕われた事によって、私達は解放されて自由を得た（ガラ5：1）；これに
より、イエスは私達の喜びとなる（ルカ1：47）、これは霊的な喜びである（ロマ14：
17；ヨハ16：22，24；ピリ4：10～12）

ルツ記の真髄

序言：

聖書は全部で六十六巻ある。女性の名をもってタイトル名にしたのは二つある。一つはエステル記、一つはルツ記である

エステル記：一人のユダヤ人女性がペルシャ王に嫁いで妃となり、王宮の中で生活した。その後、彼女の信仰、愛、勇気によって民族が滅びることなく救われた。正に「女が男を保護する」代表作である（エレ31：22）

ルツ記の描写は、異邦人の女性がユダヤ人に嫁ぎ、その後、夫が亡くなって、貧しい姑に従い、姑の故郷に帰った。この女性は姑に孝行であったので、資産家のボアズを感動させ、ルツを妻として迎え入れた。その後、苦境から一転して、幸せな生活を送った。正に「孝行は天を感動する」の代表作である。ルツ記に基づいて各章から一つの教えを取って共に励みとしよ：

一、導きと選び

- 1、エリメレクの導きが間違っただけに、家族は落ちぶれ、悲惨な結果を招いた（1：1～5）
信者は一時的に困難に遭ったとしても、簡単にベツレヘムを離れてはいけない（糧の家）（参考：創26：1～13）
神が呪ったモアブの地（姦淫の地）に寄留してはいけない
間違っただけによって、その終局は哀れ且つ悲しい（参考：創13：10～13）
- 2、ナオミがモアブの地を離れたのは、祝福の始まりである（1：6～7，19，22）
正しい導きと選びには、神の恵みが生かされてくる（詩25：4～5，12～14）
- 3、ルツが正しい信仰と国を選んだのは、恵みを受ける転換点である（1：15～18）
私達が信仰に対して正しく選び、真の教会に対して真に認識する事が幸福の重点である（ヨハ6：66～69；詩73：25）

二、ルツが落ち穂を拾う

- 1、第二章では、「落ち穂を拾う」が全部で十ヶ所記載されてある（2：2，3，7，8，15，17，19，21，23）この言葉がこの章の主題である
- 2、ルツは姑と一緒に生活するために、また、生命を維持するためには、落ち穂を拾わなければならない
- 3、教会は霊的な畑である。この地に来たら、霊の糧を拾わなければならない（ルカ4：16～22；ヘブ10：25；ルカ2：46）
- 4、聖書は霊的な畑である。私達は毎日聖書を読み、霊的な糧で充実され、霊的な生命を豊かにする（ヨハ5：39；使徒17：11；詩119；エレ15：16）

三、二世代之間

- 1、ナオミはルツを思いやり、常にルツの幸せを考えていた（3：1）
- 2、ナオミに対するルツの尊敬、従順は年長者に深く愛された（3：5）
- 3、ナオミは常にルツを自分の娘のように可愛がり、思いやった（3：16, 18）
- 4、二世代之間：父母と子供、先輩と後輩、導く者と導かれる者、教師と生徒の間、嫁と姑の間……、溝が深くなるのを避けるためには、互いに「愛」を以って相手を受け入れる。なぜなら、愛は……（コリ13：4~8）
- 5、愛とは相手を受け入れる事であり、それには、相手の長所、短所、違う思想（観念）、行い、価値観、風習……などを受け入れる事である（ロマ13：8~10）

四、三代が集って、暖かく楽しい（4：13~17）

- 1、幸福な家庭には三種類の声がある：年寄りの声、中年の声、子供の声、この家には全てが揃った
- 2、この三代にはそれぞれの仕事と使命がある
ナオミ（先代）養母の仕事を負い、ルツを助け、子供を養い育て、この家に跡継ぎが出来た（テモ1：5）
ボアズとルツ（今の代）生産の仕事を負い、全家族の生活を顧みる責任を果たす
オベデ（次世代）良き名声を持ち、年長者の思いを高く挙げ、年長者を養う（使16：1~2；サム上2：21, 26）
- 3、今日の教会の兄弟姉妹は、三代に分ける事が出来る（参考用）。彼らは各々その職に就き、神の家を興し、輝かせた
三十五歳以下を次代の若者とし、三十五歳から六十歳を現代の壮年とし、六十歳以上の信徒を先代の年長者とする。この三代が心を合わせて、神の家のために力を尽くして職責を全うすれば、神の家は必ず光と喜びに満ち溢れるだろう
参考聖句： テモ1：3~7；ヘブ11：23~29；ルカ2：41~52；サム上1~3章

結論：

ルツ記は百回読んでも飽きない書物であり、その中の教えは比類なき豊かさに満ち溢れている。願わくは、この「真髄」を通して、多くの人々が興味を示し、更に進んでルツ記の真髄を拾い上げ、魂の飢えと渇きを満足させ、霊的な性質を壮健且つ活発にして欲しいと思う。

ヨブ記の苦難観

序言

人生は世にあって多くの苦しみがある（ヨブ14：1；詩90：10）

苦しみが臨んだ時、どういう態度を持つべきか？苦難に対してどのような見方があるか？

ヨブは一連の苦難を受けて、彼の妻、友とサタンはそれぞれ違った見方を持っていた。その見方は以下の通りである：

一、サタンの見方

- 1、信者は苦しみを受ければ、必ず神を棄てると思っている（ヨブ1：9～12，2：4～5）
- 2、しかし、ヨブは違った。彼は言った：「主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」（ヨブ1：21）
- 3、パウロの精神のように（コリ12：7～10）

二、ヨブの妻の見方

- 1、ヨブの妻は言った：「あなたはなおも堅く保って、自分を全うするのですか。神をのろって死になさい」（ヨブ2：7～9）
- 2、このような見解は間違っている。神が私を愛するから、私も神を敬う。私を顧みなければ、神を棄てる。これは一種の取引性の信仰である
- 3、ヨブの答は正しい（ヨブ2：10）
- 4、パウロの精神（ロマ8：35～37；テモ1：8，12）

三、ヨブの三人の友の見方

- 1、temanびとエリパズ（ヨブ4：7～8，5：6，12～13，15：34～35，22：5～11）
- 2、シュヒびとビルダデ（ヨブ8：3～4，13～14，20，22）
- 3、ナアマびとゾパル（ヨブ11：6，11，20）
彼ら三人にとって苦難とは罪を犯した事への報いであり、自分または子供が罪を犯し、神に罪を犯した事によって起こると思っている。
- 4、実際、苦難は罪だけによるものではなく、ある時は、神の愛による試みであり、信徒を金とするためである（ヨブ23：10）

四、ヨブの見方

- 1、初めの見方は正しい（ヨブ1：21，2：9～10）
- 2、後に、神に怨み言を言い、神は不公平であると言う（ヨブ19：7～12，21：23～25，27：1～6，16：18～21）。これは間違っている。

- 3、全ての遭遇は神から出たものです。私は黙して口を開きません（詩39：9）
- 4、ヨブも最後に自分を悟り、懺悔した。神も彼を祝福し、彼を苦境から救った（ヨブ42：1～6，10）

五、エリフの見方

- 1、エリフは神の霊に感動された（ヨブ32：1～10，18～22）
- 2、彼は苦難を以下のように思った。
 - 神は人を救って罪から離れさせ、深い穴に落ちないようにするためである（ヨブ33：29～30）
 - 神の教えを受けさせ、豊かな境地に至らせる（ヨブ36：15～16）
 - 神の報い（ヨブ34：11～12）
 - 神は絶対に正義を曲げない（ヨブ34：11～12、37：23～24）
- 3、彼の見解は正しい

六、神の御旨

- 1、サタンの口を塞ぐ（ヨブ2：3）
- 2、ヨブを更に完全にさせ、金と成らせる（ヨブ23：10；ペテ1：7）
- 3、苦難に耐え忍んだ者には、二倍の祝福が来る（ヤコ5：11；ヨブ42章；詩66：10～12）

結論：

- 苦しみを受ける事は益がある（詩119：67，71，75）
- 苦難は教師である（イザ30：20～21）

箴言の中にて冠を論じる

序言：

「冠」は栄え、尊さ、讃美を代表する

一、父母の訓戒（箴1：8～9）知者の言葉が含まれる

- 1、知者の勧めと戒めは、従順なる人の耳には、精金の飾りのようだ（箴25：12）
- 2、友の誠実なる勧めと教えは油や香のように甘美である（箴27：9）
- 3、人の訓戒、勧めと教えを常に愛せよ。そうしないと、獣のように死に至る（箴12：1、15：10）

二、知識を得る（箴14：18）

- 1、知恵ある者の富は、自分の冠のためにある（箴14：24）この富は神の御言を指す（参考：詩19：10、119：72）
- 2、知恵は人を高く挙げ、尊ばせ、頭には栄えの冠がある（箴4：8～9）
- 3、知恵は始まりである。全てのものを以って知恵と換えよ（箴4：7）

三、子孫は老人の冠のために（箴17：6上）

- 1、子は神から賜った嗣業であり（詩127：3）、彼の幸せであり、彼の栄光である（詩127：5）
- 2、しかし、放蕩、わがままな子は、父母に恥をもたらす（箴29：15）
- 3、子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない（箴22：6）

四、父親は子の栄えである（箴17：6下）

- 1、人は父母の学識、地位、財産をもって誇るが、それは真の栄えではない
- 2、言葉にも、行いにも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者と子の模範になりなさい（テモ4：12）
- 3、賭博、酒飲み、喧嘩、貪る事をするな、子の恥とならないために（例えばノアのように：創9：20～21；アハブは真理に背き、家族全員に害を与えた）

五、若い人の栄えはその力である（箴20：29上）

健康の秘訣は以下の通りである：

- 1、一心に主に従う（ヨシュ14：6～14）
- 2、力を尽くして主のために多く働く（申34：7）
- 3、霊的な性質の隆盛、身体の壮健（ヨハ3：2）、霊的な性質が強くなれば、必ず聖霊

に満たされる（エペ3：16）

六、老人の美しさはその白髪である（箴20：29下、16：31）

白髪：長寿の意味、長寿の秘訣は以下の通りである：

- 1、父母を敬う（エペ6：1～3）
- 2、神を恐れ、その命令を守る（申6：1～2）
- 3、口から悪を言わず、悪から離れて善を行い、和らぎを求める事に努めよ（詩34：12～14）

七、賢い妻はその夫の冠である（箴12：4上）

- 1、ルツは孝行で、勤労で、清い（ルツ記）
- 2、箴言三十一章の記載によれば：
 - 夫は彼女を信頼し、収益に欠けることがない
 - 手ずから望みのように、それを仕上げる
 - 夜遅くに寝て、朝早く起きる
 - 手を貧しい者にかき、乏しい人に手をさしのべる（愛の心）
 - 舌にはいつくしみの教がある
 - 家の事をよくかえりみ、怠りの糧を食べることをしない
 - 神を恐れ敬う
- 3、賢い妻は主から賜わるものである（箴18：22、19：14）；神から賜るように求め、自由に選ばない（創6：1～3）

結論：

力を尽くしてこれらの冠を追い求めよ
既にあるのなら、堅く守っていなさい（黙3：11）

伝道の書から人生の美事を見る

序言：

人生は何を以って素晴らしきと言えるか？（伝2：3）

一、世の人が素晴らしいと思う事（7：11～12）

- 1、学問への追求
 - とても辛い（8：16～17）
 - 悩みが多い（1：16～18）
 - 良いとは限らない（9：11）
- 2、富への追求（10：19）
 - 労苦が多い（4：6～8）
 - 満足しない（5：10～12）
 - 人に取られる（2：18～21）
 - 持って帰れない（5：13～17）
- 3、享樂への追求（2：4～8，25）
 - 空である（2：1～3，11）
 - 満足しない（1：8，7：27～28）

二、書中の指摘

- 1、健康（5：18～19）
 - 労苦の中にあって飲み食いする（2：24、3：13）
 - 暗やみと、悲しみと、多くの悩みと、病と、憤りの中にあって飲み食いする事は不幸に属す（5：17、6：1～2）
- 2、仕事を楽しむ（3：22）
 - 人生の目的は仕える事である（参考：マル10：45）
 - 全ては主のために（ロマ14：7～9）
- 3、善を行う（3：12）
 - 人に施す（11：1～2）。ドルカスのように（使徒9：36）
 - 福音を伝える（11：6～7）。パウロのように（コリ9：22）
- 4、互いに愛し合う（9：9）
 - 人が多くの年、生きながらえ、その全てにおいて自分を楽しませる（11：8）
 - 暗闇の日（災難、迫害、老衰）はもうすぐ来る、よって、更に互いを愛し合うべきだ（11：8，9：10）
- 5、神を恐れる（12：13）
 - 神は造物主である（12：1）

神は救い主である（3：11、12：7）

神はさばきの主である（11：9～10、12：13～14）

結論：

人生は長くない、しっかりとチャンスを掴んで、神には栄光、人には益する事を多くして、素晴らしい人生を過ごそう（マタ16：26； テモ4：7～8）

ハガイ書のメッセージ

一、作者

- 1、ハガイ（1：1）、意味は「私の節期」、「私の喜び」である
- 2、帰国した後の預言者であり、ゼカリヤと同時代である（エズ5：1、6：14）

二、時代

- 1、ダリヨス王の二年（紀元前520年）（1：1）
- 2、六月から九月（1：1、2：10、20）約三ヶ月と二十四日。仕事の期間は短い、長久の価値と効果があった

三、場所

エルサレムにて、帰国した同胞を勧め、励ました

四、主題

捕囚から帰国を許されユダヤ人と司たちに主の宮の再建を勧めた。彼の富んだ挑戦的な問題提起と激励によって、民達は深く感動し、主の宮の再建を完成させた

五、背景

- 1、紀元前586年、バビロンがエルサレムを攻撃し、ユダ国は滅び、民は捕虜となった（歴代下36：11～21）
- 2、紀元前536年、ペルシャ王クロスの布告により、選民は故郷に帰り、主の宮の再建を許された（歴代下36：22～23）
- 3、紀元前535年、選民は主の宮の建築工程を開始し、主の宮の基礎を据えた（エズ3：8～11）
- 4、敵の妨げによって主の宮の建築工程が停止する（約15年間）
- 5、紀元前521年、ダリヨス王の第二年、彼は先代の王の布告をもって、選民に継続して主の宮の再建を許す詔を出した（エズ6：1～12）
- 6、預言者ハガイはこの時、ゼカリヤと共に民達を励まし、奮い立って主の宮の建築に勇んだ。そして、紀元前516年、終にその工程を終えた（エズ6：15）
- 7、工程が停止した時、民達は自分のためにきれいな家を建て、敵の妨げも日々多くなり、天災による凶作、材料の欠乏、人心の失望によって、主の宮は永く荒んでいた。このような状況の下、預言者ハガイは神の力に頼り、忠実に呼びかけ、神の御言を伝え、短期間の内に、民達を励まして主の宮の再建という神聖な工程を完成させた

六、段落分け

本書はメッセージの日時によって、五段落に分けられる：

- 1、第一段落（1：1～11）：6月1日、ユダヤ人が主の宮の再建を延ばす事を責める
- 2、第二段落（1：12～15）：6月24日、神が共におられる事を証し、司たちと民の心を強く励ました
- 3、第三段落（2：1～9）：7月21日、民達に強く立って働く事を励ました。なぜなら、新しい宮は古い宮よりも栄光が大きい
- 4、第四段落（2：10～19）：9月24日、罪の汚れによって神に祝福されないと民に警告する。しかし、今日から、罪の汚れは清められ、神は必ず祝福される
- 5、第五段落（2：20～23）：9月24日、ゼルバベルとの約束（メシヤの承諾）

七、重要な教え

- 1、この民は、主の家を再び建てる時は、まだ来ないと言っている（1：1～6）

これはユダの総督ゼルバベルと大祭司ヨシュアが話した事である。この二人は民達の司であり、一人は政治的指導者、一人は宗教的指導者であった。神は彼らに霊的な目と智恵を身に付け、民達の口実に欺かれてはならない（1～2）

これらは全て民達の口実であり、本当の原因は：主の宮に対し不関心中、自分の家だけを顧みて、時間やお金を費やしたくないとハガイは指摘する。故に、神の祝福を受けられない（3～6）

教会の中のあらゆる事に対して、しっかりとチャンスをつかみ、力を尽くして働く（ヨハ9：4；伝9：10）
- 2、自分の行いについて考えよ（1：7～11）

あなたがたは多くを望んだが、見よ、それは少なかった。あなたがたが家に持ってきたとき、私はそれを吹き払った。なぜなら、神の家が荒れ果てているのに、あなたがたは、おのおの自分の家の事だけに、忙しくしているからである（9）

肉に属す貧困と苦難は、霊的の貧窮を引き起こす（士3：7～9、6：1～10）

天災や日照りが続き、民は安心して生活することも出来ず、その苦しみは非常に大きい（10～11）

これは神の刑罰であり、人が主の宮に対して不関心中であるなら、神は民達の産物、家畜、穀物、新しい酒……に関心を示す必要があるか？（レビ26：18～21；申28：23～24）

山に登り、木を持ってきて主の家を建てよ。そうすれば私はこれを喜び、かつ栄光のうちに現れる（8）

主の宮の建築は自分の家の建築よりも重要であり、最優先の仕事である。山を降りて世界に入り、お金を稼いで私欲を放縦するのではなく、山に登って木を持って来る事である。結果、神はこれによって喜び、かつ栄光のうちに現れる（参考：ルカ2：49）

神のとの交わりと霊的修行を重視する事は、他の何よりも大事である（ピリ2：12～13；ヨブ1：5）

3、神が司たちと民の心を奮い立たせたので、彼らは心を一つにして主の宮の建築にとりかかった（1：12～15）

神の御言と預言者の励ましにより、民達は奮い立った（12～13）

神の御言には力があり、人の心を奮い立たせる（ネヘ8章）

預言者の言葉を軽んじてはならない（テサ5：19～20）

民は、主の前に恐れかしこんだ（12）

神と預言者の言葉に聞き従う事は、神を恐れる表れである

神を恐れる者は、神に喜ばれる（使徒10：34～35；詩25：12～14）

私はあなたがたと共にいると主は言われる（13）

この一言は簡単で短いが、力ある許諾の言葉である。この一言によって、人は強くなり、勇敢に立って主のために働けるのである（14）

神は良くこの言葉をもってその働き人を励ます。例：モーセ（出エジ3：12）、ギデオン（士6：16）、ヨシュア（ヨシュ1：9）、エレミヤ（エレ1：8）、パウロ（使徒18：9～10）

私達は神の約束をしっかりと掴み、忠実に主のために働く（ヘブ13：6；ロマ8：31）

4、この地の全ての民よ、勇気を出して働こう（2：1～5）

これは神が司たちと民を励ました言葉である（4）

神が人に与えたのは、臆する心ではなく、強い心である（テモ1：7、2：1；ヨシュ1：6、7、9、18）

なぜ弱くならないで、強くなれるのか？

神が共にいるから（4）：イザ41：10；申31：6～8

神は約束を守る神だから（5）：申7：9；ヘブ10：23

神の御霊が共にいるから（5）：ゼカ4：6；ロマ8：26

5、主の家の後の栄光は、前の栄光よりも大きい（2：6～9）

この言葉は非常に大事で、望みに満ち溢れた預言である。参考までに幾つかの見方を紹介する：

ソロモンの建てた宮の栄光はゼルバベルの建てた宮の栄光に及ばない（なぜなら、敵の妨げの中、物資の欠乏、民達の困難な環境の下、神に頼って奮い立ち、宮の建築を完成させたからである）

後にヘロデ王の建てた宮はゼルバベルの建てた宮の栄光よりも大きい事を指す（ヨハ2：20）

主の宮の再建を完成した後、神の民達は心と思いを尽くして神に歸し、神の顕す栄光は更に大きいと指す

世の終わりに真の教会が復興した後、霊に属す栄光はかつての如何なる宮の栄光にも勝る（エペ1：23；黙21章）

私は万国民を震う。万国民の財宝は、入って来て、私は栄光をこの家に満たす（7）
神は万民を感動させて神に帰させ、財宝が運ばれるが如く、神の栄光を宮に満たす事を指す（イザ60：4～9）

万国の慕う方が来る（7節付注）、これはキリストの降臨を預言し、旧約において民衆が待ち望んでいたメシヤを指す（マラ3：1）

わたしはこの所に繁栄を与える

キリストは平安の王、平和の君であり、人類に真の平安を与える（イザ9：6；ルカ2：14；ヨハ14：27、16：33）

6、律法について祭司たちに尋ねる（2：10～14）

祭司のくちびるは知識を保ち、人々が彼の口から律法を尋ねる（マラ2：7；レビ10：11）

聖なるものは他のものを聖と成らせる事は出来ない（12）

罪悪は全ての物を汚す（13）

民が祝福されない原因はこれである（14）

神の目から見て、主の宮を忘れ、自分の利益だけを顧みる者の生活は、清くない人がささげ物を食べる様に汚れている。故に祝福されない

7、わたしは今日から、あなたがたに恵みを与える（2：15～19）

今、あなたがたはこの日から、後の事を思うがよい。主の宮で石の上に石が積みれなかった前、あなたがたは、どんなであったか（15）。これはバビロンに捕虜として連れて行かれ、エルサレムの荒涼した情景を指し、民達はなぜこのような悲惨な結果になったのか考えるべきである。これはソロモンの建てた栄光に輝く主の家を見た先代の老人に向って警告した事である（2：3）

あなたがたはこの日より後、すなわち、九月二十四日よりの事を思うがよい。また主の宮の基をすえた日から後の事を心にとめるがよい（18）。なぜ穀物を収穫できなかったのか？なぜ果物は実を結ばなかったのかを思い出せ。なぜなら、民達は自分の家だけを顧みて、主の家を荒れ果てたままにしたからである。これは主の宮の基をすえたこの代の人に警告した事である

わたしはこの日から、あなたがたに恵みを与える（19）

過去は祝福されず、得たものは吹き払われたが、今、民達は目を覚まし、預言者の勧めを受け入れ、主の宮を再建した。故に、神は必ず祝福する

この日から、作業にとりかかった（工事開始日）、行う者は必ず祝福される（ヤコ1：25）

脚を踏み出す日（実行日）、神の祝福が後からついてくる（創13：14～17；ヨシユ3：7～17）

8、ゼルバベルよ、その日、わたしはあなたを立て、あなたを印章のようにする。わたしはあなたを選んだからである（2：20～23）

わたしは天と地を震う。わたしは国々の王位を倒す（21～22）。これは世の終わりを預言している。世界は滅び、国々は政治、軍事の勢力誇っても倒されていく（アモ4：11）。万国、万民がさばきを受ける情景である（ダニ2：44；マタ24：7；黙19：15～16）

その日、わたしはあなたを立て、あなたを印章のようにする。わたしはあなたを選んだからである（23）

印章は力を表す（エス3：10；創41：42；ダニ6：8～9）

印章は宝物を表す（雅8：6）

印章は神のために労苦する全ての働き人を表し、全て神に重んじられ、愛される（ヨハ12：26）

しかし、神の選びによって得る事が出来る（民17：1～8；ヨハ15：16）。罪を犯し、或いは自重しなかった事により神に抜き取られないように心を留めるべきだ（エレ22：24）

9、万軍の主は言われる（2：23）

「万軍の主は言われる」は、ハガイ書において十三回使われた。これは本書が再三に亘って強調した言葉である。その他に「主の言葉」が六回、「主は言われる」が五回使われた。

これは主を第一に強調し、力、能力、智恵に富み、全ての上において、最も尊ばれ、最も大いなる方であり、ほまれと讃美を受けるべきである（ハバ2：20；詩29：1～2，10～11、24：7～10；ルカ1：46）

10、模範的な神のしもべ - ハガイ

自分を隠し、自身の家柄、生涯、経歴を語らない

自分を伝えない、ただ「万軍の主は言われる」事を伝える

民の行いに対して指摘する。ただ責めるだけではなく、時には慰める。ただ批判するだけではなく、時には称え、励ます

彼は言行一致、口先だけではなく、共に行動した。彼は民と共に働いた（エズ5：1～2）

オバデヤ書を調べる時の心得

一、作者

- 1、オバデヤ(1)
- 2、名前の意味：主のしもべ

二、時間

二説ある

- 1、バビロンがエルサレムを攻めた後(紀元前586年)
エドムがバビロンに攻められる前(紀元前582年)
- 2、紀元前880年、ヨシャバテ王の早年時代である。なぜなら、本書11節にはヨラム王の時代で起きた戦争が記されている(参考：歴代下21：16～17；列王下8：20～22)

三、場所

- 1、バビロンでユダヤ人に対する
- 2、エルサレムでユダヤ人に対する

四、主題

- 1、エドムの罪悪と滅びを論じる
- 2、ユダヤ人の復興

五、エドムの歴史

- 1、エサウ、またの名をエドム、エドム人の先祖である(創36：9)
- 2、セイル山に住む(申2：5)
- 3、イスラエルの兄弟であったが、代々敵同士であった(参考：サム上14：47；詩60篇；サム下8：14；列王上11：14～22, 25)
- 4、ヨラム王の時、エドム人が背いた(歴代下21：16～17；列王下8：20～22)
- 5、紀元前586年、ネブカデネザル王によってエルサレムが攻め落とされた時、エドム人はその災禍を大いに喜んだ(詩137：7)。その五年後、バビロンに滅ぼされた
- 6、残されたエドム人は、ユダ南部の山地に逃れ、約四百年間に亘ってユダヤ人と敵対した
- 7、紀元前126年に征服され、割礼を強要されて、ユダヤ人に帰化した
- 8、紀元70年、エルサレムは滅ぼされ、エドムはもはや存在しない。神の御言が成就された(オバ18)

六、エドムの罪

心が高ぶり、自分を欺く(3)。驕るものは必ず敗れる(箴16:18, 5、17:19、15:25)。エドムは何に頼ったか？

- 1、天然の障壁(3)：岩のはざまにおり、高い所に住む
勢力(八バ1:11; エス3:1~6)
外見(サム下14:25; エス1:11~12)
富(テモ6:17; 詩52:5~7; ヨブ31:24~28)
住家(詩49:11~13, 16~20)
- 2、隠れる所(6)：参考：エレ49:10
嘘と偽り、悪を計る(箴26:24~26、6:12~15; イザ28:15)
隠れて悪を行う(イザ29:15)：ユダのように(マル14:44~45; ルカ22:47~48); ヨアブのように(サム下20:9~10)
隠しても必ず現れる(マル4:22; テモ5:24~25)
心に偽りが無いナタナエルを学ぶ(ヨハ1:47)
- 3、同盟を結ぶ(7)
アブサロム(サム下15:1~12)
ヨシャパテ(歴代下20:35)
イスラエル人(イザ30:1~5、31:1~3)
教訓(コリ15:33; 箴13:20; 詩146:3~4; エレ17:5; イザ2:22)
- 4、知者が多い(8)
知者の知恵を滅ぼす(コリ1:19, 27)
アヒトベル(サム下17:14)
自分の知恵に頼らない(箴3:5~7)
- 5、勇士が多い(9)
勇士は役に立たない(アモ2:14~16; 詩33:16~17)
ゴリアテ(サム上17:47~50; 詩76:5)
モーセ(出エジ2:11~15)
神の御霊に頼る(ゼカ4:6; 伝9:11)
知者、勇士、金持.....など、頼ることは出来ない(エレ9:23~24)

七、エドムの罪行

- 1、兄弟を陥れる(10)
カイン(創4:8~9)
ヨセフの兄達(創37:18~28)
兄弟は苦難のために生きる(箴17:17; 詩55:12~14)
- 2、何もしないで、ただ見ているだけ(11)
良くない(テモ5:8; テモ3:1~2)

- 災いがある（アモ6：6）。ナバルの例（サム上25章）
 報いに遭う（箴24：11～12）
 主の教え（ルカ10：25～35）
- 3、人の災禍を喜ぶ（12）
 この考えはいけない（ヨブ31：29，36，40；詩35：15）
 真の神は喜ばない（箴24：17～18）
 罰を免れない（箴17：5）
 アンモンの人々（エゼ25：1～7）
 ツロの人々（エゼ26：1～6）
- 4、驕る言葉を話す（12）
 ネブカデネザル王（ダニ4：28～34）
 シメイ（サム下16：5～8）
 カイン（創4：23～24）
 神は必ず罰する（詩137：7、101：5；箴30：13～14）
- 5、人の苦難につけこんで危害を加える（13）
 歴史（民20：20；参考：エレ20：10）
 アマレク人（申25：17～18；参考：サム上30章）
- 6、人の危機につけこんで打撃を加える（14）
 難民を殺す（詩41：9；ヨブ19：14，19，21～22）
 敵に渡す（奴隷として売る）。ヨセフの兄達

八、エドムの終局

- 1、主の日は必ず臨む（15）
 さばきの日は必ず来る（ロマ2：5～6；黙22：12）
 歴史の証
- 2、報いは必ず来る（15～16）
 神は必ず報いる（ロマ2：6～11；箴5：22、16：4）
 カルデヤ人（ハバ2：6～8）
 エドムの人々（エゼ35：15）
 人を憐れまなければ、憐れみのないさばきを受ける（ヤコ2：13；マタ18：23～25）
 人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ（ルカ6：31；マタ7：～2）
- 3、残るものはない（18）
 ヤコブの火によって滅ぶ（18；イザ10：16～18）
 悪を行う者は必ず滅ぶ（詩1：4～5）
 聖霊（火）に頼って肉の欲を満たさない（ガラ5：16～25；コロ3：5）

九、ヤコブの家は必ず興される

- 1、シオンの山には、逃れる者がいて、聖なる所となる（17）
 - 逃れた者（残った民）：勝ち得た者、罪から免れた者（黙2：7、3：5）
 - シオンの山に集まる（ヘブ12：22）、熱心に礼拝する
 - 必ず聖となる（ロマ6：22； テサ2：13）
- 2、炎となる（18）
 - 溢れるほどの力を得る（使徒1：8；ルカ24：32，49）
 - エサウの家を滅ぼす（イザ4：4；詩1：5；使徒5：11；詩5：5；ロマ8：13）
- 3、地はヤコブに帰する（19～20）
 - 天国の嗣業（ヨハ14：2； ペテ1：3～4）
 - 霊的な祝福（エペ1：3～4； コリ1：22、5：5）
 - 霊的な保証（エペ1：3～4； コリ1：22、5：5）
- 4、王国は主に帰する（21）
 - 救いの者がシオンの山に上る（主が共におり、統治する）（黙11：15）
 - エサウの山をさばく（黙14：1，7； コリ5：10；マタ16：27；使徒17：31）
 - 王国は神に帰する：心が神に帰する（コリ10：5）；神の国が心にある（ルカ17：20～21）；天に在るように地に在る（マタ6：10）；天国の実現（黙11：15）

十、立ってエドムと戦え（1）

- 1、個人生活：キリスト化した生活
 - 真理の上において自分の徳を高める（ユダ20）
 - 愛の内において自分を立てる（エペ4：16）
 - 心の中にキリストの形を作る（ガラ4：19）
 - 生きるはキリストである（ピリ1：21）
- 2、家庭生活：教会化した家庭
 - 全家族が信仰に入る（使徒16：31、16：15、10章）
 - 全家族が主に仕える（ヨシュ24：15；使徒18：1～3，26）
 - 家庭祭壇（ヨブ1：5；創18：19； テモ1：5）
 - 家庭教会（コリ16：19；ロマ16：3～5；コロ4：15；ピレ2）
- 3、教会生活：家庭化した教会
 - 一家族である（テモ3：15；エペ2：19）
 - 心と思いを一つにする（エペ4：1～3）
 - 一体関係（エペ4：4，12、1：23）
 - 肢体が互いに顧みる（コリ12：25）
 - 天に在るように地に在る（使徒2：14～47；マタ17：4）

ヤコブの手紙にて祈りを論じる

序言：

ヤコブは教会の柱である（ガラ2：9）、彼は祈りを重視し、私達にどのように祈るかも教えてくれた。

一、祈りを必要とする者は誰か？

- 1、知恵に不足している者（ヤコ1：5）
ソロモンは知恵を求め、神は大いなる知恵を与えた（列王上4：29～34）
- 2、苦しんでいる者（ヤコ5：13）
ヨブは多くの苦難の中にあっても、真の神に祈り、讚美した（ヨブ1：20，21）
- 3、病んでいる者（ヤコ5：14）
ヒゼキヤは涙を流して神に求め、神は十五年の寿命を増し加えた（イザ38：1～5）
アサ王の様に真の神に求めず、医者に頼ってはいけない（歴代下16：12，13）
- 4、あらゆる賜物に不足する（ヤコ1：17）
聖霊のあらゆる賜物を切に神に求め、自分の靈性を充実させ、教会の発展に力を尽くす（コリ12：7～11、14：1）
- 5、喜びがある（ヤコ5：13）
神に祝福されて、万事が順調の時、祈りを以って神の恵みを讚美する事を忘れてはいけない（出エジ15：1，2～21）

二、どのように祈るべきか？

- 1、信仰による（ヤコ1：6、5：15）
二人の可哀相な盲目の人は、主を信じた事によって癒された（マタ9：27～30）
- 2、切に願う（ヤコ5：17～18）
ヤコブ（イスラエル）は切に願い求めたので、聞き入れられた（創32：22～28）
- 3、罪を認める（ヤコ5：16）
神は罪人の祈りを聞かない（ヨハ9：31）、故に、祈り求める時、自分を深く審査し、過ちがあるなら、認めて悔い改め、主の赦しを求める（詩51：17；哀3：40，44）
- 4、義を行う（ヤコ5：16）
義人コルネリオの祈りは神の御前に届き、神に記念された（使徒10：1～4，31，35；箴15：8）
- 5、助禱する（ヤコ5：16）
アブラハムはソドムの町のために祈り、神の赦しを願った（創18：23～32）；
イエスはペテロのために祈った（ルカ22：31，32）

三、無効の祈り

1、疑い(ヤコ1:6,7)

イスラエル軍の長は神の約束を疑ったので、祝福されないばかりか、踏み倒されて死んでしまった(列王下7:1,2,16~20)

2、清くない(ヤコ3:9,10)

偽りを言う舌、偽りをのべる証人、争いを起こす口、これらは神の憎む事であり、彼らの祈りは無効になる

3、妄りに求める(ヤコ4:2,3)

ヨハネとヤコブは、火でサマリア人を焼き滅ぼしましょうと妄りに求めたので、主に責められた(ルカ9:51~56)

結論：

多く祈りなさい。しかし、正しい祈りをするべきである。

ペテロの第一の手紙を調べる

本書の著者： イエス・キリストの使徒ペテロ（1：1）

著書の年代と場所：

年代：

- 1、紀元 64 年、ネロ王が施行した第一次大迫害の前に書かれたと謂われている
- 2、紀元 90 年、ドミティアヌス王が施行した第二次大迫害の前に書かれてと謂われる

場所：バビロン（5：13）、今日のローマである

受信者：

小アジアに離散し寄留しているユダヤ人の信徒に書き送った（1：1, 2）

本書の趣旨：

- 1、勧めるために（5：12 上）
- 2、神の真の恵みの証（5：12 下）

内容分析：

一、信仰に関して

- 1、信仰の唯一の対象 真の神（1：21）
- 2、信仰の性質は絶対的なより頼みと委ねである（2：6、5：7）
- 3、信仰の結果は魂の救いを得る（1：5, 9）
- 4、信仰は試される事によって更に尊さを顕す（1：7、4：12）
- 5、信仰にかたく立って、悪魔に抵抗する（5：8, 9）
- 6、キリストは信じる人にとっては尊い石であるが；信じない人にとっては躓きの石である（2：7, 8）

二、望みに関して

- 1、望みの基はキリストの復活にかかっている（1：21）
- 2、望みの対象はイエス・キリストである（1：13、5：10）
- 3、望みへの理解
 - 信徒を新たに生れさせて生ける望みを抱かせる（1：3）
 - ペテロは自分が将来現れる栄光にあずかる者であると深く信じる（5：1）
 - 神の栄光の霊が私達に宿っている（4：14）
- 4、何を望む
 - 生命の恵みを受け継ぐ望み（3：7）
 - 私達のために天に蓄えてある資産を受け継ぐ望み（1：4）
 - しばむ事のない栄光の冠を受ける望み（5：4~6）
 - 信徒はこの望みについて説明を求める人には、いつでも弁明の出来る用意をして

いなさい(3:15)

三、愛について

1、愛の動力

真理に従う事から来る(1:22)

互いに同情し合って生きる(3:8)

2、愛の表れ

互いに同情する(3:8)

互いに仕える(4:10)

互いに接待する(4:9)

互いに挨拶する(5:14)

喜んで世話し管理する(5:2)

敵のために祝福する(3:9)

兄弟のように愛する(3:8、2:17)

3、愛の功能

愛は多くの罪を覆う(4:8下)

愛によって祝福を受けられる(3:9、5:3、4)

4、真の神の愛

神は天地創造の前から、救い主を備えていた(1:20)

神は私達を愛するために、自ら私達の罪を担った(2:24)

私達は神の尊い血によって贖われた(1:18、19、1:2)

私達が神の民となれた(2:9、10)

四、クリスチャンの人徳

1、謙虚の精神

甲、神に対して

神の力強い御手の下に、自らを低くする(5:6)

神が得るべき栄え、尊さを神に帰さなければならない(4:11、16、5:11)

謙って神のしもべとなり、神に仕える(2:16)

乙、人に対して

永く謙虚の心を持つ(3:8)

みな互に謙遜を身につけなさい(5:5中)

若い人達は、長老達に従いなさい(5:5上)

人が得るべき敬重を与える(2:17、3:7)

2、絶対的な従順

甲、従順の対象

信徒はキリストに従う（1：2）
神の御旨に従う（4：2、5：2）
真理に従う（1：22）
王と長官（2：14）、全ての制度（2：13）に従う
しもべは主人に仕える（2：18上）
若い人は年長者に従う（5：5）
妻は夫に仕える（3：1）
互いに仕える（5：5）

乙、従順の教えに関して

従順をもって身の飾りとする（3：5）
恐れ的心をもって仕える（2：18）
従順の子となる（1：14）
従順の美德は人を感化して主に帰させる（3：1）
不従順な人は、真理の上において躓く（2：8）

3、柔和な態度

柔和な心をもって人に答える（3：15）
柔和と淑やかな心をもって身の飾りとする（特に女性）（3：4）
不当な苦しみに耐えられる（2：19）
罵られても罵り返さず、苦しめられても脅かさない（2：23）
優しさをもって羊の群れを導く（5：3）

4、清い生活

甲、清さの動力

水のバプテスマによる（3：21）
恐れ的心を持つ（1：17、3：2）
自分の心を抑え、慎んで自分を守る（1：2）
聖霊に頼って清くなる（1：2）

乙、具体的な清さ

自分の心を清める（1：22）
全ての不義を取除く（2：1）
肉の情欲を避ける（2：11）
あらゆる行いにおいて聖なる者となる（1：15）

丙、清さの効用

聖なる国にあって、聖なる祭司となる（2：5、9）
世の光となって、人を感化する（3：1、2、16）

5、苦しみに耐える意志

甲、主が残された模範（2：21）

主は全人類の罪のために、十字架の痛みを受けた（2：24）

義なる方が不義の人々に変わって痛みを受けた（3：18）

キリストが肉において苦しめられたのは、福音の事実である。使徒はこの事の証人である（4：1、5：1）

乙、キリストに倣い、痛みを受けることを以って武器とする（4：1）

不当な痛みを受けて、それに耐え忍ぶなら、神の御心に適う事（2：19）

善を行うが故に受ける痛みを耐え忍ぶなら、神の御心に適う事（2：20）

痛みを受ける範囲

a あらゆる不義の行いによって痛みを受けないようにする（4：15）

b 罪故に受ける痛みは、何一つ誇るものはない（2：20上）

c 善を行って苦しむ方が、悪を行って苦しむよりはよい（3：17）

d キリストと共に痛みを受ける（4：13）

苦難を受けて栄光を得る

a 今は痛みを受けるが、将来は喜びを得る（4：13）

b 一時的な苦難を受ける事によって、永遠の幸せを得る（5：10）

c 肉に痛みを受けた者は、罪との関わりを絶つ事であり、将来の栄光について語れる（4：1、2）

d キリストの苦難の証人となって、世の終わりの時、永遠に朽ちない栄光の冠を得る（5：1、4、1：11、12）

五、神の真の恵み

1、キリストはどのようにして救いを成就したか？

キリストの救いは旧約時代で預言されていた（1：10、11）

この救いは神が予め準備していた（1：5、20）

イエス・キリストに罪はない（3：18、2：22）

主は私達の罪のために十字架に付けられ、死なれた。それにより、救いは完成された（1：3、3：22）

2、救いの機能

甲、現在

私達が罪から贖われ、聖なる物となった（1：18、2：24）

魂の牧者の所に戻った（2：25）

神の家の者となった（4：17）

神の子となった（1：17、2：9、10）

互いに兄弟姉妹となった（2：17、5：12）

神の顧みを得た（5：7、14）

乙、将来

恐ろしいさばきから免れる（４：１７，１８）

天の上にある資産を受け継ぐ（１：４）

永遠の命、栄え、尊さを享受する（３：７、１：７、５：６）

３、如何にして救いを受けるか？

信仰によって神が準備した救いを受ける事が出来る（１：５，２１）

悔い改めて、悪口とあらゆる不義を棄てる（２：１、３：１０，１１）

真理と新たに生まれる洗礼による（１：２３～２５、３：２１）

聖霊を求める（１：２，１２、４：１４）

混じりけのない霊の乳を慕い求める（２：２）

神の絶えない助けを求める（３：１２、４：７、５：８，１０）

４、救いを拒んだ者の終局

彼らは主の御前において申し開きをする（４：５）

神はそれぞれの行いに応じてさばく（１：１７）

福音を信じず、謙らない者は地獄に投げ入れられる（３：１９，２０、４：１７，１８）

結論：

私達は世の人が共に救われるように速く神の救いを伝え広めなければならない

主が復活した後の「七つの問い」

序言：

イエスは人の罪のために十字架に付けられて死なれ、葬られて三日後に復活し、四十日間弟子の間に顕れ、弟子達と話された。その間、弟子達に七つの事を問いかけ、素晴らしい教えが含まれている。

一、女よ、なぜ泣いているのか？（ヨハ 20：15 上）

- 1、主は言われた：「あなたがた自身のため、また自分の子供たちのために泣くがよい」（ルカ 23：27～28）
- 2、捕虜となった民のために泣く（エレ 13：17）
- 3、自分の過ちのために泣く（マル 14：72；ルカ 7：38、18：13）
- 4、悲しむ人たちは幸いである（マタ 5：4；詩 51：17）

二、だれを捜しているのか（ヨハ 20：15（下））

- 1、霊的な仲間を探す（ルカ 1：39～40）
- 2、さ迷う羊を探す（マタ 18：12；ヤコ 5：19～20；ヨハ 1：43～45）

三、互に語り合っているその話は、なんのことなのか（ルカ 24：17）

- 1、人の是非を語る（テモ 5：13；マタ 12：36～37）
- 2、神の御言を語る（ルカ 1：39～55；申 6：6～7）
- 3、教会の事を語る（コリ 11：28～29）

四、なぜおじ惑っているのか。（ルカ 24：38上）

- 1、肉に属す事について考えている（マタ 6：25～34）
- 2、霊に属す事、教会の事のために考えるべき（コリ 7：8～11、11：28）

五、どうして心に疑いを起すのか（ルカ 24：38 下）

- 1、疑いの災い（マタ 14：31；ヤコ 1：6）
- 2、主に助けを求める（詩 94：19；ピリ 4：6～7）

六、子たちよ、何か食べるものがあるか（ヨハ 21：5）

- 1、主は弟子の生活を心配する（マル 6：34～44、8：1～10）
- 2、先ず、神の国と神の義を求める（マタ 6：33；詩 23：1、34：8～10）

七、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか（ヨハ 21：15～17）

- 1、イエスは至宝である（ピリ 3：7～8）
- 2、イエスは最も私達を愛する（ヨハ 15：13；ガラ 2：20）
- 3、主を深く愛せないでいられるか？（ コリ 5：14～15；ロマ 8：35～39；ヘブ 11：24～26）

結論：

主が問いかける時、あなたは何と答えるか？どんな志があるのか？（ロマ 14：7～8；ピリ 2：13）

三章十六節

新約聖書には多くの3章16節がある。これらを連結させると、一つの意義ある真理となる。

以下にまとめた：

- 1、 ロマ3：16：主に帰する前、私達の歩んだ道は、あらゆる罪と悪の道であり、罪の中に陥り、抜け出せずにいた。
- 2、 ヨハ3：16：神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。
- 3、 ヨハ3：16：主は私達を愛し、私達を罪から救い出し、ご自分の命を犠牲にして、十字架に付けられ、死なれた
- 4、 マタ3：16：今、私達は主の尊い血によるバプテスマと約束された聖霊を受ければ、救いの望みがある。
- 5、 テモ3：16：これらの事を如何に知ったのか？それは、神が啓示した聖書からである。
- 6、 コロ3：16：キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。
- 7、 ペテ3：16：もっと自分を大切にし、永く正しい良心を持つ。
- 8、 コリ3：16：私達の身体は神の神殿であり、神の霊が私達の内に住んでいる。
- 9、 黙3：16：行い、真理、あらゆる奉仕の上において熱くもなく、冷たくもないような態度を取ってはいけない。神に棄てられる事から免れるためである
- 10、 エペ3：16：上から来る力(聖霊)を求めて、私達の内なる人を強めてくださるように。
- 11、 ルカ3：16：それによって、やがて来る火の洗礼に応じる事が出来る
- 12、 テサ3：16：どうか、平和の主御自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和をお与えくださるように

奉仕とその備え

キリストに従う

序言：

キリストの弟子はキリストの歩みに従った。キリストの行く所は、私達も行かなければならない。全てにおいてキリストと共に歩み、共に走り、しっかりと従って行く事こそキリストの良き弟子となれる。

一、なぜキリストに従うのか？

- 1、神のしるしを見たからキリストに従った（ヨハ6：2）
- 2、神のしるしを体験したからキリストに従った（マル10：52；ルカ18：43）
- 3、神のしるしを求めるためにキリストに従った（マタ12：15～16、19：2）
- 4、パンをお腹いっぱい食べたからキリストに従った（ヨハ6：24～27）
- 5、多くの人が集まってキリストに従った（マル5：24；マタ21：9）
- 6、永遠の生命のためにキリストに従った（ヨハ6：66～69）
- 7、イエスに仕える為にキリストに従った（マタ27：55；マル15：41）

二、イエスに従ってどこに行くのか？

- 1、イエスに従って会堂に行く（マル1：20～21，29）
常に会堂に行き礼拝し、聖書を調べ、宣教と祈りをする（詩122：1）
- 2、イエスに従って霊の同胞の家に行く（マル1：29～31）
霊の同胞を訪問し、互いに交流し、助祷する（ルカ1：39～56）
- 3、イエスに従って荒野に行く（マル1：35）
荒野に行き休み（マル6：31）、荒野で祈り、黙想し、主と霊的に交わる（イザ30：15）
- 4、イエスに従って聖なる宮に入る（マル11：1～11）
最も美しい道程であり、最も喜び、栄えある旅程
- 5、イエスに従ってゲツセマネに行く（ルカ22：39～40）
完全なる従順、自分をささげ、夜を徹して祈る（ヘブ5：7～9）
- 6、イエスに従ってゴルゴダの山に行く（ルカ23：26）
主のために十字架を背負い、侮辱に耐え忍び、甘んじて苦しみを受ける（ルカ14：25～27）

結論：

キリストに従う人は専心して、如何なる苦難をも恐れてはいけない（ルカ9：57～62）
全てを捨て去り、すぐに従う（ルカ5：11，28）

遠くから主に従ってはいけない (マル14 : 54)

キリストに従う人は、今生と来世において大きな賞与が与えられる (マタ19 : 27~29)

神の家を愛する

序言：

誰でも自分の家を愛する

教会は神の家である（ テモ3：15）、私達は神の家の人である（エペ2：19）。故に神の家（教会）を愛する。では、どのように愛するか？

一、喜んで神の家に来る（詩122：1～6）

二、神の家を忘れてはいけない（詩137：5～6）

三、神の家を清める（ヨハ2：13～17）

四、神の家の事について関心を示す（ コリ11：28～29；ルカ2：51）

五、神の家のために忠実を尽くす（ヘブ3：5）

六、神の家の中にいる人を愛す（ヨハ4：20）

七、神の家の発展のために祈る（詩122：6～7；イザ62：1，6～7）

結論：

誰もが神の家を愛せば、神の家は必ず発展する

教会は神の家である

序言：

教会には多くの喩えがある。例えば：神の羊の群れ、神のぶどう園、神の宮、神の国…。

教会は「神の家」とも喩えられる（ テモ 3：15）

一、一家の精神がある（エペ 2：19）

- 1、他人ではない（全く関係のない人）
- 2、客人とならない（人に仕えられる人）
- 3、家族である：これは私の家、共に喜びと苦しみを分かち合い、互いに愛し、助け合い、苦しむ人を労わる（ロマ 12：11，15；ルツ 1：16～17）

二、共通の目標がある（ピリ 1：5，27）

- 1、目標があるから努力できる（ピリ 3：13～14）
- 2、目標は家族で相談して定める（遠大な目標、近期な目標）
- 3、目標のために心を合わせて協力し、終始貫徹する（ピリ 2：12）

三、優れた家風（ロマ 1：8）

- 1、良い家庭には良い家風がある（例えば：善を積む家、礼儀正しい家、読書家の家、孝行の家）
- 2、教会も然り（ テサ 1：8，3；ピリ 4：15～16；コロ 1：8）

四、三代繋がる（ミカ 2：12）

- 1、活発で、活気があって、良い名声がある少年（ルツ 4：14，15；詩 110：3；使徒 16：1～2）
- 2、若くて、力が漲り、大いに産み増える事が出来る壮年（ルツ 4：15；詩 68：11；ロマ 12：11）
- 3、子供達を愛護し、後輩を思いやる老年（ルツ 4：16；サム上 12：23；詩 71：8，9，17，18）

結論：

教会は神の家である。私の霊の同胞が教会を自分の家とし、常に思いやり、助祷してくれる事を願っている。また、神の宮に来ることを好み、肉体は神の家におり、心も神の家の事と繋がれば、神の家は必ず大いに栄える（詩 122 篇；ルカ 2：49； コリ 11：28～29）

教会の指導の仕事を論じる

一、指導の意義

- 1、指導とは補助と教え導くことである
- 2、消極的なものとして疑問の解釈、勧告、警戒があり；予防に重点を置く
- 3、積極的なものとして解決、教え導き、生まれ変わる；更新に重点を置く
病人 常人 新人

二、指導の重要性

- 1、イエスは世において三つの大きな仕事があった：即ち福音伝道、民衆の教訓、病症の治癒である（マタ4：23、9：35）
- 2、今日、教会の御働きも大きく分けて、「伝道」、「教え導く」、「治癒」の三大範疇である
- 3、指導の重要性については、以下の通りである：
個人の需要を重んじる
個別の問題に深入りする
聖書でも指導の重要性について多く示されている（コロ1：28～29；ルカ15：3～7）

三、指導の範囲

1、一般学校

- 生活指導： どのように身を持するか（人徳を育てることを重んじる）
学業指導： どのように勉強するか（知識を得ることを重んじる）
就業指導： どのように働くか（仕事の技術を重んじる）

2、教会の中で

- 真理指導： 聖書の勉強、教義の理解、聖書の難題の解答
生活指導： 個人生活、家庭生活、学校生活、社会生活、教会生活（肉体生活、精神生活、霊性生活）
奉仕指導： 自分を認識し、賜物を良く尽くし、いろいろな御働きに参加する
婚姻指導： 正確な婚姻観を指導し、男女間の感情問題、婚前のパートナー探しや性問題を解決する。如何にして信仰に頼り、祈りを通して婚姻上の難題を解決するか指導する

四、青少年は誰に助けを求める？

- 1、自分の知っている人
- 2、自分の好きな人

3、自分の尊敬する人

4、霊的な人徳と力のある人

伝道者、長老執事、責任者、宗教教育教員……などは、教会の青少年にとって最良の指導者である

五、指導者の資格

聖書の指示：「ロマ15：14；ガラ6：1～6」

1、善意に溢れている：本当の思いやりと愛

2、知識に溢れている：聖書の熟知、知恵に富む

3、勧めと戒めが出来る：技巧がある、運用できる、賜物がある

4、霊に属す人：新しく生まれ変わる、霊の徳があつて、霊の実を結んだ

5、固い立場：妥協しない、誘惑に陥らない、常に自己検討する

六、指導の方法

1、人を以って本とする：神を指導過程の外に排除する

2、神を以って本とする：人を指導過程の外に排除する

3、二者の間に介する：指導過程の中において、神が参与した時、指導者は橋梁となり、指導を受ける者は必ず代価を払わなければならない

七、指導の過程

1、良好な関係を立てる（ヨハ15：14～15；箴17：17）

2、専心して耳を傾け、深く理解する（箴18：13、23：19；サム下16：4；ヤコ1：19）

3、情緒、思想、行いを重んじる（ペリ4：4～13）

情緒（ヨハ11：35、2：14～17；マル10：13～16）

思想（ヨハ20：27；マタ11：2～6；ヨハ3：1～15）

行い（ヨハ8：1～11；ルカ10：38～42）

4、啓発、受入れ、責め、教え導く（ルカ24：17～19；ロマ15：1、12：15；ガラ2：11；ルカ22：24～32）

八、指導目標の達成

指導の主要目標は、指導を受ける者が変わる事である。確かに変わる事は難しいが（エレ13：23）、神にとっては全てが出来る（ロマ7：24～25；ペリ4：13；イザ1：18）
目標達成のためには、幾つかの方法に留意すべきである：

1、回り道をする

2、向きを変えて逃げる

3、重要な点を避けて、二次的な点を取り上げる

- 4、人の力に頼る
- 5、神に頼って勝つ

九、指導の種類

- 1、同輩指導
- 2、危機指導
- 3、電話指導
- 4、手紙指導
- 5、チーム指導
- 6、自我指導
- 7、転送指導

十、指導のエネルギー

- 1、聖書（ テモ3：16～17；詩119：105）
- 2、祈り（ピリ4：6～7；ヘブ4：16）
- 3、聖霊（ヨハ16：8～13；ロマ8：26～27）
- 4、愛（ヨハ21：15～17；列王下6：23； コリ8：1）

十一、指導の形式

- | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|---------|
| 1、直接型 | 預言式 | 父母類 | 対質式 | 行いを重んじる |
| 2、放任型 | 祭司式 | 子供類 | 懺悔式 | 情緒を重んじる |
| 3、交流型 | 牧者式 | 成人類 | 対話式 | 思想を重んじる |

十二、成功した指導者

- 1、指導訓練を受ける
- 2、指導書籍を読む
- 3、良く集会し、良く聞く
- 4、実際の指導の実行
- 5、常に自分の心を検討する
- 6、仲保者が常に指導する

良い忠実なしもべ

序言：

お金を預ける喩えの中で、イエスは五タラントと二タラントを預けた二人のしもべを称えて言われた：「良い忠実な僕よ……」（マタ25：21，23）。つまり、イエスは自分のしもべが「良い忠実なしもべ」であることを好む

一、良いしもべ

良いとは、穏やか、素直、善良、慈善

1、人の徳を高める言葉を話す（エペ4：29）

心は美しい言葉に溢れ、唇には気品が注がれている（詩45：1）：言葉を以って衰えた手を強め、か弱い膝を強め、躓く人を助ける（ヨブ4：3，4）

イエスに倣う（ルカ4：18，22；ヨハ8：1）

2、柔和で礼儀正しい態度（テモ2：24～26；民12：3）

狂暴にならない（使徒20：29）

争わない（テト3：1）

驕らない（ヨハ3：29～30）

3、寛大な心を持ち、慈しみとまことを心に持つ（箴3：3～4、20：28）

羊の群れを愛する（使徒20：29～30）

弱い人を助け起こす（ロマ15：1；コリ9：22；使徒20：25）

父と母の思いやりがある（テサ2：6～12）

ダビデがサウロに接したように（サム上24章、26章）、シメイに接したように（サム下16：5～14）、反逆した息子アブサロムに接したように（サム下18：5，31～33）

二、忠実なしもべ

主の働き人は、即ち神の管理者である。管理者に要求されているのは忠実である（コリ4：1～2）

1、本分を尽くす（ルカ17：9～10）、賜物を尽くす（ペテ4：10～11；マタ25：20，22）

2、二人の主人に仕えない（マタ6：24）、二心を生じない（歴代下12：33）、専心して主に仕える（使徒6：4～6）

3、時に応じて食物を備える（マタ24：45）、聖書を真面目に読み、自分を充実させる（ネヘ8章；テモ4：13）

4、主人の財産を浪費しない（ルカ16：1）

5、死に至るまで忠実である（黙2：10）、死ぬまでやりぬく（使徒20：17～35）

結論

この通りにする事が出来れば、主の言葉を必ず聴く事が出来る：「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」（マタ25：21，23）

良き牧者

序言：

イエスは羊の群れの大きいなる羊飼いである（ヘブ12：10）

イエスは良き牧者である（ペテ5：4）

イエスは良い羊飼いである（ヨハ10：11）

現在の伝道者、教会責任者、宗教教育教員、また、誰もが良き牧者となれることが出来る

良き牧者は如何にするべきか？

一、自分の羊の名を呼ぶ（ヨハ10：3）

- 1、良い羊飼いは自分の羊を知っており、羊も彼を知っている（ヨハ10：14）
- 2、羊は良き羊飼いの声を聞き分ける（ヨハ10：27）
- 3、羊の群れの状況を詳しく知る（箴27：23）

二、羊の先頭に立って行く（ヨハ10：4）

- 1、全てにおいて模範となる（ヨハ13：15；ペテ2：21）
- 2、羊に群れの模範となる（ペテ5：3；コリ11：1）
- 3、羊も彼に従う（ヨハ10：4, 27）

三、羊のために命を捨てる（ヨハ10：11）

- 1、盗人が来るのは、盗み、殺し、滅ぼす事をするためにほかならない（ヨハ10：10）
- 2、雇人は、狼が来るのを見ると、羊を捨てて逃げ去る。羊の事を心にかけていないからである（ヨハ10：12～13）
- 3、良き羊飼いは羊のために命を捨て、羊に命を得させ、豊かに得させる（ヨハ10：10）

四、羊を緑の牧場に導く（詩23：2）

- 1、肥沃な牧草地で彼らを養い、美しい牧場で憩う（エゼ34：14）
- 2、羊の群れが出入りして、牧草にありつく（ヨハ10：9）
- 3、時に応じて食物を彼らに与える（マタ24：45～47）

五、羊を憩いの水辺に導く（詩23：2）

- 1、これは良き牧者が必ず考える事である（黙7：17）
- 2、イエスはこの事を留めている（ヨハ7：37～39）
- 3、良き牧者は必ず羊の群れに向かって、聖霊に満たされる事を祈り求め、聖霊の賜物を多く求め、常に聖霊に頼って行いなさいと導く（エペ5：19；ロマ8：5～6；ガラ5：

16～26； コリ12章)

六、力に応じて、ゆっくりと前に進む(創33：13～14)

- 1、失せたものを尋ね、迷い出たものを引き返す(エゼ34：16)
- 2、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする(エゼ34：16)
- 3、弱いもの、小さいものを懐に入れて携える(イザ40：11)
柔らかな心を持って、ゆっくりと正す(ガラ6：1；ロマ15：1)。催告してもいけないし、急いでもいけない(参考：ルカ15：3～7)

七、絶えず助禱する(サム上12：23)

- 1、救いとは火の中から取り出した一本の柴のようである(アモ4：11；ゼカ3：2；ユダ23)
- 2、両軍の対峙のようである(出エジ17：11)
- 3、牧者の絶えない祈りを頼る(使徒20：31～32)
- 4、イエスの良き模範(ルカ22：31～32)

結論：

良き牧者となれば、将来必ず冠を受ける(ペテ5：4)
そうでなければ、神は必ず羊を失う罪を追求する(エゼ34：1～10)

大いなる志を立てて、大きな謀を設けよ

序言：

孫文は言った：「人生は奉仕する事を以って目的とする」

蔣経国は言った：「犠牲して享受せよ、犠牲を享受せよ」

邱創煥主席は言った：「奉仕の行政を以って民の便宜を図り、福祉の行政を以って民に利益をもたらす」

イエス曰く：「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」

上に述べられた「奉仕」、「犠牲」、「仕える」はクリスチャンの神を愛し、人を愛する精神である。即ち「キリストの精神」である。故に、パウロは私達を励ました：「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕える」（ロマ12：11）

キリストの精神を実行するために、私達は志を立てて、終始貫徹出来るように努める；また、志を果たすためにも、必ず慎重に画策し、成功出来るように努める

一、志を立てるとは何か？その必要があるか？

- 1、志を立てるとは、一つの事を初めから終わりまで徹底してやり遂げ、中途半端で終わらない；良い意味での頑固者である
- 2、志を立てる必要
 - a 古人曰く、一日の計画は朝にあり、一年の計画は春にあり、一生の計画は少年にある
 - b パウロが言った：「わたしは目標のはっきりしないような走り方をせず、空を打つような拳闘はしない」（コリ9：26）
 - c 人が志を立てて行うのは、神の霊が働きかけている事であり、神の御旨を成就するためである（ピリ2：13）

二、古の聖徒の模範

- 1、アブラハム：「わたしは糸一本でも、くつひも一本でも、あなたのものは何にも受けません」（創14：23）（廉潔な節操）
- 2、モーセ（ヘブ11：24～26）
 - a パロの娘の子と言われる事を拒んだ（官僚にならない）
 - b 一時的な罪の儂い歓楽を享受しない（逸楽を貪らない）
 - c エジプトの財産を捨て、甘んじてキリストのために虐待を受けた（財産を欲さず、志を立てて主のために苦しみを受ける）
- 3、サムエルが言った：「わたしは、あなたがたのために祈ることをやめて主に罪を犯すことは、けっしてしないであろう。わたしはまた良い、正しい道を、あなたがたに

教えるであろう」(サム上12:23)(愛の祈りと忠告)

4、ダビデ

- a 神の宮の建造を志す(歴代上29:1~5)
- b 唇から過失がないように志す(詩17:3)
- c 死ぬまで神の宮から離れないと志す(詩27:4)

5、エズラ：「心をこめて主の律法を調べ、これを行い、かつイスラエルのうちに定めとおきてとを教えた」(エズ7:10)

6、ダニエル：「王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めた」(ダニ1:8)(心身の清さを守る)

7、パウロは言った：「わたしは自分の行程を走り終え、主イエスから賜わった、神のめぐみの福音をあかしする任務を果し得さえしたら、この命は自分にとって、少しも惜しいとは思わない」(使徒20:24)(生命をささげ、使命を果たすと志を立てる)

三、どのような志を立てるべきか？

聖書では：「あなたは自分のために大いなる事を求めるのか、これを求めてはならない。見よ、わたしはすべての人に災を下そうとしている」(エレ45:5)

ダビデの元帥ヨアブが言った：「勇ましくしてください。われわれの民のためと、われわれの神の町々のために、勇ましくしましょう」(歴代上19:13)

国父は言った：「官僚になる事を志すな、大事を成す事を志せ。」大事とは、国家民族に対して利益があることである

ネヘミヤは神の宮の城壁の修築を大事とした(ネヘ6:3)。主は言われた、生命の価は全世界よりも重い(マタ16:26)。故に、大事とは、人の魂を救い、神を栄え、教会の益となる事である

1、自分について

- a 純粋で正しい信仰を確立する(テモ1:13~14)。先輩の正統な信仰を受け入れる(テモ1:5)。聖書を読む習慣を養う(テモ3:15~17;詩119:105;ヨハ5:39)
- b 完璧な人徳を追い求める(テモ4:12)。ダニエルのように素晴らしい霊性を持つ(ダニ5:12、6:3)。神の人のように(列王下4:9;民12:3)。キリストのように(ヨハ3:2~3;マタ11:29;エペ4:20~24)

2、家庭について

- a 全家族を導いて信仰に入り、主に仕える
全家族が信仰に入る(使徒16:30~34;ヘブ11:7)。全家族が主に仕える(ヨシユ24:15)
- b 家庭の教会化を培う
神を恐れる一家の主(創18:19;ペテ3:6)

家庭祭壇を築く（ヨブ 1 : 5 ; ロマ 16 : 5）

キリストを我が家の主とする（コロ 1 : 18、 3 : 15 ; ルカ 1 : 46）

3、教会について

a 栄えある教会を建てる（エペ 5 : 26 ~ 27）

b 模範の教区となる（使徒 11 : 19 ~ 30、 13 : 1 ~ 3、 14 : 26 ~ 27）

c 共に組み合わされて有為ある總會となる（使徒 15 章、 21 : 17 ~ 18）

四、良い計画をささげる

知なき勇は、勇なきに等しい；謀に断下さずなら、成る事あらず。私達は神の家の盛衰のために、大事を成すと志を立てなければならぬ。しかし、知恵をささげず、共に図る事が出来なければ、どのように大事を成すというのか？

1、指導者がなければ民は倒れ、助言者が多ければ安全である（箴 11 : 14）

レハベアム王が即位して間もない頃；彼は国の元老達が与えた勧めを捨てた。その結果、国と民に大きな災いをもたらした。その罪は決して軽くはない（列王上 12 章）

2、良い指揮によって戦いをすることができ、勝利は多くの議する者がいるからである

（箴 24 : 6）。ダビデの王国は、多くの勇敢なる戦士が命を捨てて、恩に報いるために尽力した。加えて国中には「情勢に通じる」知恵人が多くいて、共に良策を図っていた。故に、順調に王国を築く事が出来た（歴代上 11 章、 12 章）

3、計りごとは共に議することによって成る（箴 20 : 18）；相はかることがなければ、計画は破れる、はかる者が多ければ、それは必ず成る（箴 15 : 22）

a 意識本では：「衆知を集めて有益な意見を広く吸収すれば、良策を得る事が出来る」「独断専行は、計画を失敗させる；衆知を集めて有益な意見を広く吸収すれば、成功に達する」

b 主を愛し、教会を愛する兄弟姉妹は、知恵をささげ、良策を提起し（常に興すべき事と改革すべき事を提起し、具体的、建設的な意見を述べる）、共に教会の奉仕の発展を図る。会議の参加に派遣されたならば、なるべく時間を割いて参加し、衆知を集めて有益な意見を広く吸収するを以って成果を上げなければならない

4、人の心には多くの計らいがある。主の御旨のみが実現する（箴 19 : 21）

諺によれば：「数え切れないほどの計らいがあつたとしても、天の一度の計らいに及ばない」。人の計らいは、神の御旨に適ってこそ、神に祝福される。そうでなければ、万全を期した計画であつたとしても、成功することは出来ない。これは正に「計画は人にあり、成敗は天にある」の通りである。昔の策士アヒトフェルの遭遇が正にこの通りである（サム下 17 : 14 ; 詩 33 : 10 ~ 11）

デボラの時代、全国が団結し、民族が奮い立った：「民と指導者達は甘んじて自分をささげた」、「ゼブルンは命を捨て、死をも恐れない」、婦人達も参戦した。これ

によって、全勝を獲得し、国が太平になった（士5章）

祭司エテロは良策をささげ、モーセは受け入れた。これによって、管理された行政を確立し、民にとって更に便利になった；また、多くの人材を発掘し、より組織的に、より有効的に、全民が益を受けた

願わくは、兄弟姉妹たちが神の国の建設のために、魂の救済のために、大事を成すと志して欲しい。良策をささげて、御働きについて相談し、衆知を集めて力合わせ、主のために、教会のために尽力する。そうすれば、教会は必ず興り、主の御名も栄えられる

到る所に祭壇を築き、どんな所でも光を輝かせよ

序言：

「祭壇を築く」とは、人が神に対しての事であり、「光を輝かす」とは、人が人に対しての事である。至る所で祭壇を築ける人は、必ずどんな所でも光を輝かせる事が出来る：同様に、どんな所でも光を輝かせる人は、必ず至る所で祭壇を築く。二者はこのように緊密な関係と重要性を持っている。簡略して以下にまとめた：

一、至る所に祭壇を築く

1、古の義人

アベル（創4：4；ヘブ11：4）

エノス（創4：26）

エノク（創5：22；ヘブ11：5）

ノア（創8：20～21）

ヨブ（ヨブ1：5）

イサク（創26：25）

ヤコブ

a ベテル（創28：18～22、35：3，7）

b ベエルシバ（創46：1）

c 床のかしら（創47：31；ヘブ11：21）

モーセ（出エジ17：9，15）

2、アブラハムの良き模範

シケムの所、モレのテレピンの木（創12：7）

ベテルの東の山（創12：8）

エジプトからカナンに帰った後（創13：3）

ヘブロンにあるマムレのテレピンの木（創13：18）

ベエルシバのぎよりゅうの木（創21：33）

モリヤの山（創22：2，9）

3、イエスの模範

荒野にて（マル1：35）

山上にて（マタ14：23；ルカ6：12、9：28～29）

河辺にて（ルカ3：21）

園の中にて（マタ26：36～44）

十字架の上にて（ルカ23：34，46）

4、祭壇を築く霊的な教え

「祈り」の祭壇を築く（ピリ4：5～7）

「集会」の習慣を養う（ヘブ 10：25）

「聖書を読む」生活を立てる（テモ 3：15～17）

5、「祭壇を築く」三要素

祭壇：場所（コリ 3：16～17）

供え物：生きた聖なるもの（ロマ 12：1，2）

祭司：人物（ペテ 2：9）

二、どんな所でも光を輝かす

1、イエスは「光」である

イエスは真の光（ヨハ 1：5～9）

イエスは世の光（ヨハ 8：12）

イエスは暗黒の中の大いなる光（マタ 4：16）

イエスは死の陰を照らす光（ルカ 1：79）

イエスは日の光（ルカ 1：78）

どんな所でも光を輝かす：

- a イエスの名声は全地に広まる（マタ 4：23～25）
- b イエスのなさった事は、何もかも素晴らしい（マル 7：37）
- c イエスは神の御名を栄えた（マル 1：21～22）
- d イエスの顔と衣服は光り輝いている（ルカ 9：29）

2、真の信者も光である

私達は世の光である（マタ 5：14～16）

金の燭台（黙 1：20）

光の子（エペ 5：8～9）

どんな所でも光り輝くべきである（ピリ 2：15～16）

- a ヨセフの例：家にて（創 37：1～4）、人の家にて（39：1～18）、獄の中にて（39：19～23）、王宮にて（41：37～45）
- b ダニエルの例：学校にて（ダニ 1：8～13，17～20）、王の前にて（2：46～49、4：8～9、5：10～12）、総監と総督達の前にて（6章）
- c テモテの例：偽りのない信仰（テモ 1：5）、優れた人徳がある（使徒 16：1～2）、聖書の知識に詳しい（テモ 3：15～17）、生きた霊的な賜物がある（テモ 4：14；テモ 1：6）

結論：

アクラとプリスキラは至る所で祭壇を築き、美談として残っている（使徒 18：1～3，18～19，26；コリ 16：19；ロマ 16：3～6）

賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたる（ダニ 12：3）

正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる（箴4：
18）

更に多く、更に大きく、更に美しく

序言：

オリンピックの目標は、更に高く、更に速く、更に遠くである
私達の信仰生活も目標を立てて、それに向って走らなければならない(ピリ 3：13
~14)。そして、更に多く、更に大きく、更に美しくに向って努力して追い求めるべきである

一、更に多く

- 1、更に多くの実を結ぶ(ヨハ 15：2, 8, 16)
 - 義に満ちた実を結ぶ(ピリ 1：11)
 - 人を救う実を多く結ぶ(イザ 27：6)
 - 御霊の実を多く結ぶ(ガラ 5：22~23)
 - あらゆる良いわざを行って実を結ぶ(コロ 1：10)
 - その他(ペテ 1：5~8; ヘブ 13：15~16)
- 2、主の恵みは更に多い(ヨハ 1：14, 16)
 - 神の恵みは数え切れない(詩 103：1~2)
 - 何と広く、長く、高く、深いのか(エペ 3：18~20)
 - もっと謙れば、主の恵みは更に多い(ヤコ 4：6; ルカ 7：47、18：9~14)
 - もっと従順になれば、主の恵みは更に多い(参考：創 24：66~67、26：12~13)

二、更に大きく

- 1、愛が更に大きくなる(コリ 12：31、13：13)
 - 更に人を愛する(マタ 22：39、24：12; ロマ 12：8~15)
 - 更に主を愛する(マタ 22：37~38; ヨハ 15：13、21：15)
- 2、信仰が更に大きくなる(ロマ 4：19~21)
 - 更に大きな事を成す(ヨハ 14：12)
 - 更に大きな栄えを見る(ヨハ 11：40)
 - 更に大きな力を得る(マル 11：20~24、9：23)
 - 聖霊が倍增されて満たされる(列王下 2：9)

三、更に美しく

- 1、更に美しいものを得る(箴 8：11、3：13~15)
 - 麗しい飾り、栄えの冠(箴 4：9、1：7~9)
 - 命の年を延ばし、長寿できる(箴 4：10、3：16~18)
 - 更に物事をわきまえ、更に理解する(詩 119：97~100)

2、更に美しいことを話す（ヘブ 12：24）

アベルの話（創 4：8～11；ロマ 12：14，18～21）

イエスの話（ルカ 23：43；マタ 18：21～35、6：12，14～15）

ステパノの良き模範（使徒 7：59～60）

3、更に美しいものを思う（ヘブ 11：15～16）

世界は美しいが、寄留所に過ぎない（ヘブ 11：13～14； コリ 4：18； ヨハ 2：17）

私達には更に美しく永遠なる宝がある（ヘブ 10：32～36）それは、朽ちず汚れず、しばむ事のない天に蓄えた資産である（ ペテ 1：3～5）

はるかに望ましい場所である（ピリ 1：23）

義を宿るものだけがその中に入れる（ ペテ 3：1～14）

結論：百尺竿頭、さらに一歩進む（ ペテ 1：1～11）

一つの良い事

序言：

イエスはベタニヤで、らい病人シモンの家で食卓についていた時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油を主に注ぎ、家の中に香気が溢れた。マリヤは主に良い事をしてくれたと主は言われた。四福音書の中では、この事について詳しく描写している。私達はこの事を通して、何が良い事なのか見てみよう

一、主のためにした事である（マル 14：6～7）

- 1、教会は主の身体である（エペ 1：23）主の教会のために尽くす（参考： コリ 11：23～29）
- 2、兄弟姉妹を愛する事は、主のためにした事である（マタ 25：40）；逆に、兄弟姉妹を愛さない事は、主のためにしない事である（マタ 25：45）
- 3、あなたは主の身体（教会）のために、また、兄弟姉妹のために何かしたか？

二、出来る限りの事をした（マル 14：8）

- 1、マケドニヤ全教会の実例（ コリ 8：1～4）
- 2、自分にある全てを尽くして行うならば、必ず神に受け入れられる（ コリ 8：12）
- 3、与えられた賜物を尽くし、互いに仕え、全ての事において神を栄える（ ペテ 4：10～11）

三、高価なナルドの香油をささげた（マル 14：3）

- 1、神にささげるものは、最も良いものをささげなければならない（民 18：29；レビ 3：16）
- 2、アブラハムは最も貴い独り子イサクをささげた（創 22：15～18）
- 3、私達は自分の身体を、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげるべきである（ロマ 12：1）

四、機会があるうちに行く（マタ 26：6～7）

- 1、あなたの手に善を成す力があるならば、これを成すべき人に成す事を差し控えてはならない（箴 3：27～28）
- 2、私達を必要としているうちに、すぐに行くべきである（ガラ 6：9～10；参考：列王上 17：10～16）
- 3、まだ生きているうちに（伝 9：10；ヨハ 9：4）

五、主の「足」にした事（ヨハ 12：3）

- 1、この小さい者のひとりに冷たい水一杯でも飲ませてくれる者は、よく言うておくが、決してその報いからもれることはない（マタ10：42）
- 2、静かに働き、黙々と善を行い、人に知られてはいけない。天の父は隠れた事を見て、必ずあなたに報いる（マタ6：1～4）
- 3、心から謙って、自分をふつつかなしもべであり、すべき事をしたに過ぎないと認める（ルカ17：9～10）

結論：

このように行えば良い事と言える。必ず主の住む家に香気が満ち溢れる（ヨハ 12：3；ロマ 1：8）

カルメルの山とれだまの木の下

序言：

カルメルの山とれだまの木の下は、預言者エリヤの信仰の隆盛期と低迷期の二つの地点である。簡略して以下の通りに紹介する

一、カルメルの山

- 1、信仰の言葉（列王上 18：17～19）
- 2、信仰の行い（列王上 18：20～40）
- 3、信仰の祈り（列王上 18：36～46）
ヤコブの讚美（ヤコ 5：17～18）

二、れだまの木の下

- 1、信仰を失った言葉（列王上 19：4，10）
- 2、信仰を失った行い（列王上 19：3，5上）
- 3、信仰を失った祈り（列王上 19：4上）
信仰を失う危険（ヤコ 1：3～4，6～8；ヘブ 3：19）

三、如何にして新しく力を得るか？

- 1、天使の呼びかけ（列王上 19：5，7；ヘブ 3：13）
- 2、パンを多く食べる（列王上 19：5；エレ 15：16；詩 119：25，28；アモ 8：11；コロ 3：16）
- 3、水を多く飲む（列王上 19：6，8；ヨハ 7：37～39；使徒 1：8；エペ 3：16）
- 4、繰り返し続け、繰り返し励ます（列王上 19：8；イザ 40：28～31）

結論：

エリヤは新しく力を得た後、奮い立って強くなり、四十日四十夜歩き続け、神の山に着いた（列王上 19：8）。私達は初めの信仰を最後までしっかりと持ち続け（ヘブ 3：14）、萎えた手と、弱くなっている膝とを、真っ直ぐにし（ヘブ 12章）、私達の前に置かれている道程を努めて走り（ヘブ 12：1～2）、目標に向かって走り抜けば（ピリ 3：13～14）、必ず義の冠を得る事が出来る（テモ 4：7～8）

クリスチャンの学ぶこと

序言：

使徒パウロは言った：「わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである……ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである」（ピリ3：12～15）。人は死ぬまで学び続ける。クリスチャンも絶えず学ばなければならない。では、私達は何を学ぶべきか？

一、神を恐れることを学ぶ（申4：10）

神を恐れるものは、必ず祝福される（詩115：13）

- 1、神の宮に行く時には、その足を慎むがよい（伝5：1）
- 2、隠れて罪を犯さない（創39：9；ネヘ9：7～8）
- 3、財産を以って神を崇める（箴3：9～10；申14：22～23）

二、満足することを学ぶ（ピリ4：11～12）

満足を覚えて常に喜ぶ、満足することは幸せである

- 1、先ず、貪らないを学ぶ（テモ6：9～10）
- 2、次に、感謝を学ぶ（ヨブ1：21、2：10；テサ5：16～18）
- 3、続けて満足することを学ぶ（ヘブ13：5；テモ6：6～8）。全ての事において良い方へと考えるなら、心は必ず平安になり、満足するであろう

三、孝行することを学ぶ（テモ5：4）

孝行するものは、必ず祝福される（エペ6：1～3）

- 1、幼い時から学ぶ（箴1：8～10、15；ルカ2：42、51）
- 2、結婚してから学ぶ（ルツ1：15～18；列王上2：19）
- 3、父母が健在のうちに（箴10：1、23：22、24～25；マタ15：3～9；ヨシュ2：12～14）

四、正当に働くを学ぶ（テト3：14）

正当に働く事によって貧しくなる事もなく、人を助け、神を栄える事が出来る

- 1、正当に働く（エペ4：28）国の法律を犯さない、真理に背かない
- 2、善を多く行う（テト3：14、2：14）
- 3、主のために働く（ヨハ9：4；マタ25：14～30；コリ15：58）

五、主の様式を学ぶ（マタ 11：29）

主の様式を学ぶ事によって、主に似る事が出来る。将来主の真の御姿を見る事が出来る（ヨハ 3：2）

- 1、主の柔和を学ぶ（ペテ 2：22～23；イザ 50：6）
- 2、主の謙虚を学ぶ（ヨハ 5：41、6：15、13：13～17）
- 3、主の忍耐を学ぶ（テサ 3：5；ヘブ 12：2～3；ルカ 22：63～65、23：33～39）

結論：

聖霊（私達の助け主）に頼り（ヨハ 14：16～17）常に学び、多く学び、日々学び、完全を追い求める。

信じて主に帰する人が増えた

序言：

神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至る事を望んでおられる（テモ2：4）
イエスは使徒たちに、全世界に出て行って、福音を宣べ伝えよと託され、万民が主の使徒となるようにするためである（マル16：15；マタ10：7，8）

信じて主に帰する人が増えるのは、真の神の栄えである（箴14：28）；最も価値ある仕事でもある（マタ16：26）

では、どのようにして信じて主に帰する人を増やすのか？使徒行伝の記載に基づき、励ましとして幾つか述べたいと思う

一、信者は心を一にし、熱心になり、愛する（使徒2：41～47）

- 1、私達は心を一にして福音を興す（ピリ1：5，27）
- 2、私達が互に愛し合うならば、私達が主の弟子であると、全ての者が認める（ヨハ13：34～35）

二、神のしるしと奇跡が顕れる（使徒5：12～14）

- 1、イエスは言われた：「あなたがたは、しるしと奇跡とを見ない限り、決して信じないだろう」（ヨハ4：48）
- 2、ペテロは八年間も中風を患っているアイネヤを癒した。全てルダとサロンに住む人たちは、彼を見て、主に帰依した（使徒9：32～34）
- 3、ペテロはタビタを死から甦らせた。故に、ヨッパでは多くの人達が信仰に入った（使徒9：42）
- 4、神の大いなるしるしと奇跡の顕れを求め、それによって、多くの人々が主に帰依できるように（使徒4：29）

三、教会の責任者を慎んで選ぶ（使徒6：5～7）

- 1、牛の力によって農作物は多くなる（箴14：4）；信者が増えれば、現地教会の責任者に頼るしかない
- 2、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人である（使徒6：3）
- 3、教会の責任者は必ず伝道者と心を一にして、共に協力すれば、御働きを興すことができる（使徒6：1）

四、信者は立派な人になる（使徒11：24）

- 1、立派な人とは：品行方正、愛があって、全ての事において主のために光を輝かせる人である

- 2、清い行いは未信者を感化して、主に帰依させる（ペテ3：1～2）
- 3、良い行いは神に栄光を帰させる（マタ5：16；ペテ2：12）

五、信者全体が教会の規則を遵守する（使徒16：4～5）

- 1、信者全体が聖書にある全ての教訓を遵守する
- 2、信者全体が教会の代表大会にて議決された事項を遵守する
- 3、信者全体が現地教会の信徒大会にて議決された事項を遵守する
- 4、その他、聖書の教えに適う全ての規則

六、努力して御言を宣べ伝える（使徒11：19～21）

- 1、聞いた事のない者を、どうして信じる事があるうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞く事があるうか（ロマ10：14）
- 2、五旬節の日、三千人がバプテスマを受けて主に帰したのは、ペテロの証によるものである（使徒2：37～41）
- 3、その他：（使徒4章、18：9～11）
- 4、努力して御言を宣べ伝え、人を導いて主に帰させる（テモ4：2）